

# 最明寺本宝物集総索引稿 (一)

## 語彙索引凡例

- 一、この索引は、最明寺本宝物集に用いられている  
総ての語を、古典保存会の複製本文に基いて収載  
したものであつて、(一)自立語の部と、(二)附属語の  
部との二部から成り、自立語が附属語かの別によ  
つて、各々の語は右の索引のいずれかに収められ  
るようにしたものである。
- 一、本文の中、經典等から字句を直接に引用したも  
のは、音読、訓読の別に拘らず、自立語索引の後  
に一括して掲げた。
- 一、朱書のうち、振仮名等は原則として本文と同一  
に扱ったが、一部のものゝ自立語の後に一括して  
掲げた。
- 一、見出し語は、平仮名で歴史的仮名遣(序音語は  
字音仮名遣)によつて統一し、排列は最終音節ま

でその五十音順とした。

見出し語には、私に濁点を附した。

- 一、参照項目は、複合語の下位要素からは原則とし  
て設けていず、語彙索引の最後にまとめる予定で  
ある。

- 一、用例は、本文の文字を現行の表記様式に直して  
掲げた。虫損未詳のものも、推定される語の最後  
に配した。

用例の濁点は本文にはないが、文脈の理解上、  
助詞、助動詞には附した。

- 一、用例の所在は、底本の丁数を漢数字で、表、裏  
をそれぞれオウで、行数をアラビア数字で示した。

菅原範夫

〔第一部（自立語の部）について〕

一、見出し語は單語を原則とする。

一、見出し語には、意味識別の便宜上、その意味に當る漢字を括弧に入れて示した。

一、用例について、無活用語は、原則としてその語のみを、底本の表記に従って示した。活用語はその用法に依りて下接語（又は語句）をも示した。形式名詞、補助動詞はその上接語（又は語句）を示すことを原則とした。

一、和歌に用いられている語は、他と區別するため、所在の右肩に＊を附して示した。

一、用例の配列規準の主なるものは左の如くである。

- 1、同一單語で、仮名表記と漢字表記とのある場合、合は、仮名表記を先とする。

- 2、仮名表記のうち、仮名遣が歴史的仮名遣に合

うものと合わないものがある場合には合うものを先とする。

一、漢字表記の語に振仮名のあるものと無いものとがある場合には、振仮名のあるものを先とする。

4、同一單語であつて、用例の表記が全く同じ場合には、初用例の下にまとめて所在を示した。

一、活用語については、左に従う。

1、終止形を見出しとする。

2、同一單語に用例が二例以上ある場合は、下接語を含めた文節全体の五十音順とする。又、「中止法」「連体法」などは、注記して用法別にまとめた。仮名表記、漢字表記の別は、右の操作の後に配慮した。

あ

あいくわう (阿育王)

阿育王 アユクワウ

阿育王 アユクワウ

あかし (明し)

あか、りける アカリケル

あかたやく

阿伽陀薬 アガタヤク

あかつぎ (暁)

あか、月 アカツキ

あき (秋)

あき アキ

あき アキ

あき アキ

あきのぶのうまのにふだ

う (顕信右馬入道)

顕信の馬入道 ケンシンノウマノチノミチ

あきみつ (顕光)

あきみつ アキミツ

あきみつ (飽満つ)

あき、好ち (中止法) アキコウチ

あく (空く・開く)

あき、ける アキケル

あき、ぬ アキヌ

あく (飽く)

あか、で アカデ

あく (悪)

悪 アク

あく (上々)

あ、けて アケテ

あく、えん (悪縁)

悪縁 アクエン

あく、ごふ (悪業)

悪業 アクゴフ

悪業 アクゴフ

あく、しゆ (悪趣)

悪趣 アクシユ

あく、せ (悪世)

悪世 アクセ

あく、だう (悪道)

あく、たう アクダウ

悪道 アクダウ

あく、にん (悪人)

悪人 アクニン

あく、びやう (悪病)

悪病 アクビヤウ

あさ、し (浅し)

あさ、からず アサカラズ

あさ、からぬ アサカラヌ

あさ、まし (浅まし)

あさ、ましく アサマシク

あさ、ましくて アサマシクテ

あさ、ましさ (浅ましさ)

あさ、ましさ アサマシサ

あさ、むく (欺く)

あさ、むがず アサムガズ

あさ、むぎ給はず アサムギキヨはず

あさ、やかなり (鮮なり)

あさ、やかなるには アサヤカナルニハ

あし、あと (足跡)

あし、あと アシアト

あした (朝)

あした アシタ

あじやせわう (阿闍世王)

阿闍世王 アジャセワウ

あそ、ぶ (遊ぶ)

あそ、ひ給に アソヒキヨニ

あた (敵)

あた アタ

あた、ぶ (ちぶ)

あた、ぶ アタブ

あたる (当る)

あたる アタル

あつ、まる (集る)

あつ、まる アツマル

あ、つ (中止法)

あ、つ アツ

あ、と (後)

あ、と アト

あな (感動詞)

あな アナ

あな、がちなり (強なり)

あな、がちに アナガチニ

あな、づる (侮る)

あな、づりし アナヅリシ

- あなつるへからず四〇一
- あなふのくわんおむ(叱)
- 太観音一
- あのうの観音三六三
- あなうの観音三六四
- あに(豈)
- あに二〇四五、四三三
- あのくぼだい(阿耨菩提)
- 阿耨菩提二〇四
- あはうらせつ(阿防羅利)
- 阿防羅利三三〇、四〇三
- あはす(合す)
- あはせ給二六五、元三
- あはせたる二九〇
- あはせて六〇二、五〇
- 元々三三三
- あはたのうだいじんどの(粟田右大臣殿)
- 粟田右大臣殿七〇二
- あはらのつじ(一)
- あはらのつし元三
- あはれ(感動詞)
- あはれ八三三
- あはれなり四〇
- あはれなるかな四〇
- あはれなるへし六六
- あはれみ(憐み)
- あはれみ三五
- あはれむ(憐む)
- あはれみければ二二
- あはれみて二〇
- あひがたし(会難し)
- あひかたき(連体去)
- あひぐす(相具す)
- 相具して三三
- あひだ(間)
- あひた一〇〇、二七一
- あひたて四〇
- あひたて六〇
- あひ給へりけるにも五九
- あひて五〇
- あぶぎふす(仰伏す)
- あぶきふして二〇
- あぶぐ(仰ぐ)
- あぶきたてまつりて元
- あふきて三三、三〇
- あべうち(安倍氏)
- 安倍氏三三
- あべのうち(安倍氏)
- 安部の氏三二
- あま(海人)
- あま三三
- あま(尼)
- あま一九
- あま三三
- あまた(数多)
- あまた三三
- あまり(副詞)
- あまり二七、三三、三二
- あまり五
- あまりなり(余なり)
- あまりに二七
- あみす(浴す)
- あむしき四三
- あめ(雨)
- あめ四〇
- あやし(怪し)
- あやし三六
- あやし(語幹)
- あやしむ(怪む)
- あやしまほ二
- あやしみて二、三
- あやしむべからず二
- あやす(零す)
- あやしい二二
- あらはす(表す)
- あらはす三三、三五
- あらはす(連体法)
- あら四三
- あら(し給)
- あら三三
- あらはなり(露なり)
- あらはにぞ六〇
- あらはる(表む)
- あらはれ(中止法)
- あらはれて三三、三三

あり (有り) 三三〇  
 あらざりければ 三〇五  
 あらず 一〇八 三〇七 四〇五  
 六〇五 九〇五  
 あらぬこと 九〇四  
 あらば 一〇七 三〇八  
 あらまし 三〇一  
 あらましかは 三〇一 八〇五  
 あらん 六〇三 一〇七 一六〇  
 あらんずる 八〇二  
 あらんずれば 一七〇  
 あらむとては 一七〇  
 あらむや 三〇五  
 あらんや 三〇五  
 あり 一〇四 四〇四 四〇五  
 五〇七 六〇七 七〇五 一〇一  
 一四〇五 一七〇五 二〇五 二〇五  
 三〇五 三〇五 三〇五 三〇五  
 四〇五 三〇五 三〇五 四〇五  
 四〇五 四〇五  
 ありき 一七〇 一七〇 三〇五  
 四〇五 四〇五

ありけり 三三〇  
 ありけるが 四〇五  
 ありければ 一〇五  
 ありし 五〇五 二〇五  
 ありて 三〇五 一〇五 二〇五  
 四〇五  
 あり 三〇五  
 ある (連体法) 六〇五  
 六〇五  
 ある (係結法) 三〇五  
 ある (のしの結句) 三〇五  
 あるがゆへに 三〇五  
 あるべからず 一〇五 四〇五  
 あるべし 三〇五  
 あれば 一〇五 九〇五  
 あす 四〇五  
 あや 三〇五  
 あ 三〇五  
 ありがたし (有難し) 二〇五  
 ありかたくぞ 四〇五  
 ありさま (有様) 三〇五  
 ありさま 六〇五 九〇五 三〇五

ある (或) 三三〇  
 ある 三〇五  
 或 一〇五 三〇五 三〇五  
 あるいは (或いは) 一〇五 三〇五  
 あるいは 三〇五 三〇五  
 あるい口 三〇五  
 あるじ (主) 三〇五  
 あるし 一〇五  
 あんぐゑんぐわんねん (安元元年) 三〇五  
 安元く丘 三〇五  
 あんたうじ (行願寺) 三〇五  
 行願寺 三〇五  
 あんちす (安置す) 三〇五  
 安置し (中止法) 三〇五  
 あむらくわ (菴羅菓) 三〇五  
 菴羅菓 三〇五  
 いかが (如何) 三〇五  
 いか 三〇五

いかづち (雷) 三三〇  
 いかでか (如何) 三〇五  
 いかてか 三〇五 四〇五  
 いかなり (如何なり) 三〇五  
 いかなる (連体法) 三〇五 三〇五  
 いかに (如何に) 三〇五 三〇五  
 いかに 三〇五 五〇五  
 いかのかみためなり (伊賀守為業) 三〇五  
 伊賀守為業 三〇五  
 いきのかみよりなり (志岐守頼業) 三〇五  
 志岐守頼業 三〇五  
 いきもの (生物) 三〇五  
 いく (生く) 三〇五  
 いきまり 三〇五  
 いぎぬ 三〇五  
 いくべからず 三〇五  
 いくばくなり (幾なり) 三〇五

いくはくならず 三六〇

いけ (池)

池 イケ 一〇〇〇 一〇〇〇 三六〇

いけん (意見)

意見 イケン 六〇

いころす (射殺す)

いころして 二六〇

いしずゑ (礎)

礎 イシズヱ 五〇

いそ (磯)

いそ 一三〇

いそく (急ぐ)

いそぎ 三三〇

いだく (抱く)

いたきたてまつる 二五〇

いたす (致す)

いたさ、れば 四六〇

いたして 三〇〇

いたすべき 四三〇 四三〇

いだす (出す)

いたし待 五〇

いたつ (射立つ)

いたてたてまつれる 三六〇

いたる (至る)

いたる 三六〇

いたり (中止法)

いたるまで 九〇 一四〇

いちご (一期)

一期 一〇〇 四〇〇

いちごひやくしやう (一)

五百生 五〇〇

いちぜん (一善)

一善 二〇

いちたいけうしゆ (一代)

教主 一〇〇

一代 一〇〇

いちでうゐん (一条院)

一条院 一〇〇

いちてんか (一天下)

一天下 九〇

いちど (一度)

一度 一〇〇 九〇

いちもんじ (一文字)

一文 一〇〇

一度 三六〇

いちにち (一日)

一日 二〇 七〇

いちにちいちや (一日一)

夜 一〇

一日一夜

いちねん (一年)

一年 三六〇

いちねん (一念)

一念 一〇 二〇 三〇

いちのひと (一人)

一人 三六〇

いちひやくちゆじゆんない

(一首由旬内)

一百由旬内

いちほむのみや (一品宮)

一品宮 一五〇

一品宮 一五〇

いちまい (一枚)

一枚 一〇

いちもんじ (一文)

一文 一〇

一文 三六〇

いちりやうしゆ (一兩首)

一兩首 四〇

いつ (何時)

いつ 一〇 二〇

いつ (一)

一 五〇 五〇

いづ (出づ)

いてたまはざりせば 二四〇

いて給 一〇 二〇 三〇

いにてけり 三〇

いてぬ 三〇

いつかうに (一向に)

一向に 二〇 三〇

いつかは (何時かは)

いつかは 一〇

いつこく (一國)

一國 一〇 二〇

いつこく (一國)

一國 一〇 二〇

いつこく (一國)

一國 一〇 二〇

いっさい(一切)	いとなむ(管む)	いのる(祈る)	いひたがふ(言違ふ)
一切 <small>サイ</small> 一オ 二オア 三オカ	いとなみ(中止法)	いのらざらんや	いひたかふこと
一 切 <small>サイ</small> 一オ 二オア 三オカ	いとなみ給	いのりし	いふ(言ふ)
いっさいきやう(一切經)	いとふ(厭ふ)	いのり給ふ	いはねども
一切經 <small>サイキヤウ</small> 一オ 二オア 三オカ	いとひ(中止法)	いのり給 <small>一オ 二オア 三オカ</small>	いは
いっさいししゆじやう(一切衆生)	いとまあり(違)	いのることも	いひ(中止法)
一切衆生 <small>サイシユジヤウ</small> 一オ 二オア 三オカ	いなづま(稲妻)	いのるべきなり	いひけるを
一 切 衆 生 <small>サイシユジヤウ</small> 一オ 二オア 三オカ	いなづま	いのる口きなり	いひければ
いっせん(一十)	いなづま(稲妻)	いはく(曰)	いひて
一 十 <small>イチジュウ</small> 一オ 二オア 三オカ	いにしへ(古)	いはく <small>一オ 二オア 三オカ</small>	いふ
いっへん(一返)	いにしへ	いはふ(祝ふ)	いふ(連体法)
一 返 <small>イチヘン</small> 一オ 二オア 三オカ	いぬ(犬)	いはひて	いふ(連体法)
いづみのくに(和泉國)	いぬ	いはほ(嚴)	いふ
いづみの國 <small>イチミノクニ</small> 一オ 二オア 三オカ	犬	いはを	いふ
いづら(何辺)	いのち(命)	いはむや(泥や)	いふ
いづら <small>イチヅラ</small> 一オ 二オア 三オカ	いのち <small>イチノチ</small> 一オ 二オア 三オカ	いはんや	いふ
いでく(出来)	いのち <small>イチノチ</small> 一オ 二オア 三オカ	いひ(謂)	いふ
いてきて <small>イチテキテ</small> 一オ 二オア 三オカ	いのち <small>イチノチ</small> 一オ 二オア 三オカ	いひ	いふ
いと(最)	いのり(祈り)	いび	いふ
いと <small>イチト</small> 一オ 二オア 三オカ	いのり <small>イチノリ</small> 一オ 二オア 三オカ	いび	いふ

いまに (今に) 三六四

いまに 三六四 三六五 三六六 三六七

いみ (忌) 二七一

いやす (愈す) 三六〇

いやす 三六〇 三六一 三六二

いやし給 三六三

いよいよ (弥々) 三六四

いよく 三六五

いる (射る) 三六六

いられ給 三六七

射られ給ひ 三六八

いる (入る) (上二段) 三六九

いり給ければ 三七〇

いりて 三七〇 三七一

いりぬ 三七二

いれども 三七三

いれば 三七四

いる (入る) (下二段) 三七五

いれて 三七六 三七七 三七八

いるれば 三七九 三八〇

いろ (色) 三九四

いろ 三九四 三九五 三九六

いわう (医王) 三九五

いぞ (魚) 三九六

いん (因) 三九七

いんえん (因縁) 三九八

う (得) 三九九

う 三九九

え給へり 四〇〇

えたりき 四〇一

えて 四〇二

うう (植う) 四〇三

うえられにけり 四〇四

うえられにける 四〇五

うかぶ (浮ぶ) (下二段) 四一〇

うかへて 四一〇 四一一

うく (受く) 四一二

うけ (中止法) 四一三

うけて 四一四 四一五 四一六

うけがたし (受難し) 四一七

うけかたき (連体法) 四一八

うけたまはる (受る) 四一九

うけ給はりぬ 四二〇

うけ給はるこそ 四二一

うけ給はるに 四二二

うけとる (受取る) 四二三

うけとりて 四二四

うけびみ (請文) 四二五

うごく (動く) 四二六

うこき給へる 四二七

うし (牛) 四二八

うしつ (烏髪) 四二九

いま (今) (副詞) 三五四

いまだ (未) 三五四 三五五 三五六

いまだ 三五七 三五八 三五九

鳥歌

モウ

うしなふ(失ふ)

うしなひ(中止法)

うしなふゆへに

うしろ(後)

うしろめたし(後めたし)

うしろめたき(連体法)

うす(失す)

うする(連体法)

うせさせ給にき

うせ給

うせ給ぬ

うせて

うせにけり

うた(歌)

うた(歌)

うだいしやうなりとき

右大将清時

右大将清時

右大将清時

右大将清時

右大将清時

右大将清時

うたがひ(疑)

うたかひ

うたがふ(疑ふ)

うたかふ(連体法)

うち(内)

うち

うちかつ(打勝つ)

うちかつ

うちつく(打着く)

うちつきて

うちつづく(打続く)

うちつつき(中止法)

うちどの(宇治殿)

宇治殿

うちとる(打取る)

うちとり給て

うつ(打つ)

打(連体法)

うてども

うつす(移す)

うつさる

うづむ(埋む)

うつむ

うつる(移る)

うつり給し

うてな(台)

うてな

うとむ(疎む)

うとみ給はず

うばりそんじや(優待衆)

うはり尊者

うへ(上)

うへ

うま(馬)

馬

うまぬし(馬主)

馬ぬし

うまのかみあきのぶ(右)

うまのかみあきのぶ(右)

うまのかみあきのぶ(右)

うまのかみあきのぶ(右)

馬頭願信

右馬頭願信

うまや(馬屋)

馬や

うまる(庄る) ↓ むまる

うまる(連体法)

うみ(海)

うやまふ(敬ぶ)

うやまひ給はず

うらむ(恨む)

うらみ給はず

うらみやすらん

うらむるとは

うらやまし(羨し)

うらやましくなりぬ

うらやましくも

うる(流る)

うらむ

うれし(嬉し)

うれし(嬉し)

うれし(嬉し)

うれし(嬉し)

うれし(嬉し)

うれしなむども 三才  
うれしさ(嬉しさ) 三才

うれしさ 三才

うゑ(飢) 三才

うゑ(飢) 三才

うゑ(飢) 三才

うゑ(飢) 三才

うゑ(飢) 三才

うゑ(飢) 三才

え

え(副詞) 三才

え心え給まじければ 三才

えつくらざりけるを 三才

えい(わ) (栄華) 三才

えい(わ) (栄華) 三才

えい(わ) (栄華) 三才

えうせう(幼少) 三才

えうせう(幼少) 三才

えだ(枝) 三才

えだ(枝) 三才

えふく(衣服) 三才

えふてら(延暦寺) 三才

えふてら(延暦寺) 三才

えん(延喜) 三才

お

おこして 三才

おこる (起る)	一〇四	おとす (落す)	三〇四	おにども (鬼等)	三〇六	おはすめれ	四〇六
おこり (中止法)	一〇四	おとし給な	三〇四	鬼とも	三〇六	おはす (御座す) (下段)	四〇六
おし (鴛鴦)	二〇一 二〇二 二〇三	をとしつ	四〇六	おのおの (各々)	五〇三	おはせし	三〇五
をし	二〇四 二〇五 二〇六	おどす (脅す)	五〇四 五〇五	をのく	五〇三	おはせましか	四〇四
を	二〇七 二〇八 二〇九	おととす	五〇六 五〇七	各々	五〇三	おはせましかば	四〇四
を口	二一〇	おととぎみ (弟君)	五〇六 五〇七	おのづから (自ら)	三〇七	おはら (大原)	三〇七
おそし (遅し)	二一〇	おととぎみ	五〇六	おのづから	一〇八	大原	三〇七 三〇八
遅に	二一〇	おとる (劣る)	五〇六	おのづから	一〇八		
おそれ (恐れ)	二一〇	おとらふ	五〇六	おはします (御座ます)	三〇七	おひた (し) (頼し)	三〇七
おそれ	二一〇	おどろかす (驚す)	五〇六	おはしますさ、りけり	三〇七	おひた、しくなりにし	三〇七
おそろし (恐し)	二一〇	おどろかし (中止法)	三〇七	おはしましける	三〇七	かば	三〇七
おそろしき (連体法)	三〇七	おどろく (驚く)	三〇七	おはしましける	三〇七	おふ (負ふ)	三〇七
おつ (落つ)	三〇七	おとろふ (衰ふ)	三〇七	おはしまししかば	三〇七	おひて	三〇七
おち給	三〇七	おとろえて	三〇七	おはしましし	三〇七	おひて	三〇七
おちて	三〇七	おとろへゆく (衰行く)	三〇七	おはしましし、時	三〇七	おほあね (大姉)	三〇七
おちぬ	三〇七	おとろへゆく (連体法)	三〇七	おはしましにしかば	三〇七	大あね	三〇七
おつと	三〇七	おなじ (同じ)	三〇七	おはしますを	三〇七	おほきなり (大なり)	三〇七
おとぎみ (弟君)	三〇七	おなじ	三〇七	おはしますける	三〇七	大なる (連体法)	三〇七
おとぎみ	三〇七	同じ (中止法)	三〇七	おはす (御座す) (四段)	三〇七	おほし (多し)	三〇七
				おはしき	三〇七	おほく	三〇七

おほくの 一ノ四 八ノ二 公ノ二

おほやう (火兼)

おもはし (思はし)

思は、 四ノ一 四ノ二

おほくも 多ク

おほやけ (公)

おもはしき (連体法)

思は、 四ノ三 四ノ四

おほくも 一〇ノ四

おほやけ

おもひ (思ひ)

おもひれたてまつりて 二ノ一

おほかるべし 三ノ三

おほゆ (覚ゆ)

おもひみる (思見る)

おもひきや 三ノ三

おほす (仰す)

おほえけれは

おもひける (思出づ)

おもひけむ 六ノ二

おほせらる 五ノ四

おほえ侍 三ノ三

おもひける (思成る)

おもひける 六ノ三

おほせられたれば 三ノ三

おほゆる (連体法)

おもひかへる (思返る)

おもひて 分ノ二 分ノ四

おほす (思す)

おほゆき (大雪)

おもひかへりて 六ノ三

おもふ (係結法)

おほし (中止法)

おも (面)

おもひなる (思成る)

おもふ (老ゆ)

おほせくだす (仰下す)

おもし (重し)

おもひなるに 二ノ三

おもむく (趣く)

おほせごと (仰言)

おもくして

おもひみるに 二ノ三

おもむかん 四ノ一

おほせごと (仰言)

おもくして

おもひつらひて 四ノ二

あや (親)

おほち (大路)

おもき (面)

おもふ (思ふ)

あゆ (老ゆ)

おほにでうどの (大二条殿)

おもて (面)

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

およぶ(及ぶ) 二四〇  
 およばすらむ 二四〇  
 およほし 三〇八  
 をよひ侍らす 三六〇  
 およひ侍す 三六〇  
 およひ侍らぬとも 三六〇  
 お〇〇ひ侍す 二七一  
 おる(降る) 三〇八  
 をりませ給て 三〇八  
 をりて 三〇八  
 おろおろ(疎々) 三〇八  
 おろく 三〇八  
 おろかなり(疎なり) 三〇八  
 おろかなり 三〇八  
 おろかなるかなや 三〇八  
 おろかにして 三〇八  
 おろそかにして 三〇八  
 おむあし(御足) 三〇八

御あし 三〇八  
 おむあそび(御遊) 三〇八  
 御あそび 三〇八  
 おむいのり(御祈) 三〇八  
 御いのり 三〇八  
 おむいへ(御家) 三〇八  
 御家 三〇八  
 おむいみ(御忌) 三〇八  
 御いみ 三〇八  
 おむおとど(御大臣) 三〇八  
 御おとど 三〇八  
 おむか(御賀) 三〇八  
 御賀 三〇八  
 おむこ(御子) 三〇八  
 御子 三〇八  
 おむこ(御心地) 三〇八  
 御心ち 三〇八  
 おむだうしむ(御道心) 三〇八  
 御道心 三〇八  
 おむでし(御弟子) 三〇八

御弟子 三〇八  
 おむとき(御時) 三〇八  
 御時 三〇八  
 おむとし(御年) 三〇八  
 御とし 三〇八  
 おむとも(御伴) 三〇八  
 御とも 三〇八  
 御共 三〇八  
 おむはは(御母) 三〇八  
 御母 三〇八  
 おむほとけ(御仏) 三〇八  
 御仏 三〇八  
 おむまなこ(御眼) 三〇八  
 御眼 三〇八  
 おむまへ(御前) 三〇八  
 御まへ 三〇八  
 おむをち(御叔父) 三〇八  
 御をが 三〇八  
 かい(戒) 三〇八

かいこむじき(皆金色) 三〇八  
 皆金色 三〇八  
 かいしよ(海渚) 三〇八  
 海渚 三〇八  
 かいふす(開敷す) 三〇八  
 開敷せり 三〇八  
 かう(郷) 三〇八  
 郷 三〇八  
 かうす(号す) 三〇八  
 号 三〇八  
 かうしう(講衆) 三〇八  
 講衆 三〇八  
 かうふく(降伏) 三〇八  
 降伏 三〇八  
 かうま(降魔) 三〇八  
 かうま 三〇八  
 かかる(斯る) 三〇八  
 かかる 三〇八  
 かかる(懸る) 三〇八  
 かりぬ 三〇八  
 かるほび 三〇八  
 かしおふ(かき負ふ) 三〇八

かきおいて 三三〇四

かぎり(限)

かきり 三三〇六

かく(此)

かく 三〇一六 三〇一八 三〇一七

九〇一七 一〇〇三 二〇一 三〇五

一三〇二 一三〇七 一六〇五 一六〇八

一六〇三 三〇一 三〇二 三〇二

三〇二 三〇二 三〇二 三〇二

かく(書く)

かき給ぞかし 三三〇三

かき給へるなり 四〇五

かく(悪く)

かくれは 三六〇七

かけたてまつらざらん 三六〇七

かけたりき 三三〇六

かけつれは 二五三

かけて 三〇一 三〇二 三〇二

三〇六 三〇七 三〇七

かくす(隠す)

かくし(中止法)

かくして 三三〇三

かくや(楽屋)

楽屋 三三〇三

かくる(隠る)

かくれおはしましたし 九〇三

かは 四〇三

かくる 四〇三

かざる(飾る)

かざりて 二五二

かしこまる(畏る)

かしこまり給けるを 三三〇二

かしこまりて 三三〇三

かしら(頭)

かしら 四〇五 四〇一

かす(数)

かす 三〇六 六〇五 三六〇七

かすかなり(幽なり)

かすかにして 三〇一

かすぞふ(数添ふ)

かすぞひて 六〇一

かすぞひにけり 六〇三

かすぞふ(連体法)ハウズ

かぜ(風)

かぜ 一〇六 四〇二 四〇四

かせぎ(株木)

かせぎ 一〇五

かせふせんじゆ(迎葉尊)

音) 三〇七

かせう尊者 三〇七

かぞふ(数ふ)

かぞふれは 六〇二

かぞへれは 六〇一

かぞへ申 七〇六

かた(方)

かた 二八〇四

かた(方)

かた(方) 六〇八 三〇四

かた(肩)

かた 二五〇一〇

かたがた(方々)

かた(方) 二六〇二

かたき(敵)

かたき 三三〇四

かたざる(片去る)

かたざりたてまつらで 四〇三

は 四〇三

かたし(難し)

かたきがこしく 四〇四

かたしとて 一八〇六

かたち(形)

かたち 一〇六 四〇二

かたち 二六〇五

かたとき(片時)

かたとき 一八〇六

かたの(交野)

交野 一三〇一

かたぶく(傾く)

かたふけて 二〇〇二

かたむ(固む)

かため(中止法) 一三〇一

かたらふ(語ふ)

かたらひて 三三〇八

かたる(語る)

かたりたてまつりける	二四〇一	かなへ(鼎)	三六六	かはる(変る)	三五〇一	かへす(返々)	二四〇八 三九七
かたり侍れ	三七〇六	かなへ	三六六	かはらむ	三五〇一	返々	二四〇八 三九七
かつは(且は)	三二〇一 三二〇一	かならず(必ず)	二七〇三	かはりたてまつらん	三五〇三 三六〇五	かへりきたる(返衆る)	三五〇六
かつは	三二〇一 三二〇一	かならず	二七〇三	かはり給	三六〇八	かへりきたりて	三五〇六
且は	三四〇五 三四〇六	かならずしも(必ずしも)	三〇〇六 三〇〇五	かはりて	二六〇三	かへりきたるへしと	三五〇四
かつら(鬘)	一〇〇五	かならずしも	二七〇四	かはる	二六〇七 三〇〇三 三五〇七	かへる(帰る)	
かつら	一〇〇五	かほがさきのくわんおむ (鐘崎観音)	二六〇五 二五〇三	かはる(連体法)	二二〇二	かへり(中止法)	四〇〇七
かなし(悲し)	二五〇五	かほがさきの観音	二六〇五 二五〇三	かはる(連体法)	二二〇二	かへりけるが	二六〇二
かなしかりける	二五〇五	かの(彼の)	二六〇五 二五〇三	かはれ	三五〇二	かへり給にける	二六〇五
かなしき(連体法)	二五〇五	かの	二六〇五 二五〇三	かほ口(連体法)	九〇一	かへりて	二六〇五
かなしき(係結法)へん*	二五〇六	彼の	四〇〇一	かひ(貝)	二六〇六	かへりぬ	二六〇五
かなしくおほえけは	二五〇四	かは(河)	三〇〇五 三〇〇四	かひ(甲斐)	二六〇五	かへる(連体法)	二六〇三
かなしく侍	二五〇八	かは	三〇〇五 三〇〇四	かひ	二六〇五	かへるへき	二五〇八
かなしむ(悲しむ)	二五〇一	かはさきのろくかくだう (河崎六角堂)	二九〇五	かふちのくに(河内国)	三六〇三	かめ(壘)	二五〇五
かなしむ(連体法)	二五〇一	河崎六角堂	二九〇五	かぶり(冠)	二〇〇二	かめ	二五〇五
かなしむなり	三三〇三	かほね(屍)	三三〇六	かぶり	二〇〇二	かものしげやす(賀茂 重保)	二〇〇一
かなしめる	九〇一	かはね	三三〇六	かぶる(冠る)	三五〇八	かものなりすけ(賀茂 成助)	

賀茂成助

ハヤハ

かむすし

ニ三〇八

きえうす(消失す)

一八〇

五〇四 三〇六 三三〇

かやう(斯様)

一五〇二

かんぶ(漢武)

四三〇四

きえうせぬ

きしまひ(吉志舞)

一五〇五

からす(鳥)

四三〇五

かむやうきう(威陽宮)

五〇二

きく(菊)

四〇四

吉志舞

七〇四

からす

四三〇五

威陽宮

五〇二

きく(聞く)

四〇四

きすわう(徽宗王)

五〇七

鳥

四三〇三

かんぜん(眼前)

一〇〇二

きかまし

二五〇二

きせいす(祈請す)

五〇七

からめとる(搦取る)

三〇五五

眼口

一〇〇二

き、て

三三〇三 三五〇四

きせいす(祈請す)

五〇七

からめとらむと

三〇五五

かんどり(梶取)

七〇五

きく

五〇二

祈請し(中止法)

三四〇六

からむ(伽藍)

五三〇三

梶取

七〇五

きく(運体法)

四〇七

きたのかた(北の方)

一五〇八

かりようびん(御陵頼)

ニ〇六

かんるんのまだいしやう

七〇五

きくは

二九〇四 三九〇六 四〇〇三

きたのかた(北の方)

一五〇八

迎陵頼

ニ〇六

あさみつ(関院左大将朝光)

セウ一

きけは

三二〇三

きたる(来る)

三三〇二

かるかゆゑに(故に)

一〇〇七

関院左大将朝光

セウ一

口くに

三二〇四

きのくに(紀州)

三三〇二

かるかゆへに

一〇〇七

関院左大将朝光

セウ一

きくす(木草)

三三〇四

きのくに(紀州)

三三〇二

かるし(軽し)

三〇五五

き(木)

四〇七

きこゆ(聞ゆ)

三三〇四

きのくに(紀州)

三三〇二

かるくし

三〇五五

き

四〇七

きこえ侍めり

二六〇七

きのくに(紀州)

三三〇二

かろむ(軽む)

四〇〇七

きいのくに(紀伊国)

四〇七

きこゆる(運体法)

ハ〇一

きのふ(昨日)

三三〇三

かろむへからす

四〇〇七

↓きのくに

四〇七

きこゆる(運体法)

ハ〇一

きのふ(昨日)

三三〇三

かゑんせう(哥苑抄)

二六〇二

紀伊国

二九〇二

きまき(右)

二六〇二

きば(着婆)

二五〇四

哥苑抄

二六〇二

きうせん(九泉)

四〇七

きまき(右)

二六〇二

きば(着婆)

二五〇四

かむすし(誓)

九〇三

きうせん(九泉)

四〇七

きまき(右)

二六〇二

きば(着婆)

二五〇四

きはむ(極む)	三六〇	行基菩薩	四〇二 四三〇一	きよみ(著る)	六〇七	公達	一四〇 四四二 四四九
きはめたり	三八〇	きやうごう(形像)	二六〇四	きたらん	四〇一	君達	一五〇 一六〇 一六四
きびのだいじん(吉備大 臣)	五〇八	形像	二六〇四	きたりし	一九〇	禁中	一三〇
吉備大臣	五〇八	ギヤウジヤ(行首)	二六〇四 二六〇五	きたる	一九〇	きむちう(禁中)	一三〇
きふこどくをん(給孤独 菌)	五〇三	行者	二六〇四 二六〇五	きをんじ(祇園寺)	二六〇	きむりんしやうめう(金 輪聖王)	三〇四
給孤独菌	五〇三	ギヤウジヤ(行首)	二六〇四 二六〇五	祇園寺	二六〇	金輪聖王	三〇四
きみ(若)	五〇五	響す(給)	四三〇三	きをんじ(祇園寺)	二六〇	く(来)	一七〇
きみ	五〇五	響す(へし)	四三〇三	きをんじ(祇園寺)	二六〇	きたる	一七〇
きも(肝)	三〇四	ギヤウまんす(輕慢す)	四三〇三 四三〇四	精舎	三〇二	きて	一六〇
きも	三〇四	輕慢して	四三〇三 四三〇四	祇園精舎	三〇二	く(苦)	一六〇
きやう(京)	二八〇	ギヤウろん(經論)	二八〇	祇園精舎	三〇二	く	二四七 二五〇
京	二八〇	經論	二八〇	公章	六〇三	く	二四七 二五〇
きやう(凶)	一九〇	ギヤウしゆ(送修)	二〇〇二	公章	六〇三	く	二四七 二五〇
凶	一九〇	送修	二〇〇二	きむえふしふ(金葉集)	六〇二	く	二四七 二五〇
きやう(行)	四六〇	きゆ(消ゆ)	一〇〇一	金葉集	六〇二	く	二四七 二五〇
行	四六〇	きえぬさきに	一〇〇一	きむげん(金言)	二五〇	く	二四七 二五〇
ギヤウきほマフ(行基菩 薩)	四六〇	きよくせんじ(玉泉寺)	二五〇	金言	二五〇	く	二四七 二五〇
玉泉寺	二五〇	きよみづであら(清水寺)	二五〇	きむだち(公達)	三〇四	く	二四七 二五〇
清水寺	二五〇			きんたち	三〇四	く	二四七 二五〇

くぎやう(公御)

四〇八

くたす(尙す)

三〇九

くぎやう(苦行)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くぐり(求願)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くげん(苦感)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くじふいち(九十一)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くしゆく(具行)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くしゆきけ(具行)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くす(具す)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くしたてまつり

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くすり(薬)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くせ(救世)

三〇九

くぢぎ(愚直)

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くほむと

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くほれ給

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くひけるもの

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くひで

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くへいのしんわう(具平)

三〇九

くまのこんげん(熊野権)

三〇九

くも(雲)

三〇九

くわう(供養)

三〇九

雲より 三三〇  
 雲に 三二八  
 くらひと(歳入) 三三〇  
 歳入 三三一  
 くらゐ(位) 二四四  
 位 二四四  
 三三〇二三三二四三三三三三三  
 位 二四四  
 くりんかい(苦輪海) 二五七  
 苦輪海 二五七  
 くる 二五七  
 くれ給てまし 三三二  
 くるぞんがつ(俱留孫仏) 二八三  
 俱留孫仏 二八三  
 くるま(車) 四〇六  
 車 四〇六  
 くれなる(紅) 三〇四  
 くれなる 三〇四  
 くれなひ 五二五  
 くれふたがる(暮塞る) 三〇四  
 くれふたかりて 五二五  
 くれん(紅蓮) ↓ だいぐ 五二五  
 くれん 五二五  
 紅蓮 五二五  
 くらがね(鐵) 四〇六  
 鐵 四〇六  
 くろがらす(黒鳥) 九四三  
 くろがらす 九四三  
 くろし(黒し) 三〇三  
 黒からす 三〇三  
 くいいにむ(横姓) 三三三  
 横姓 三三三  
 くいはい(荒廢) 五〇八  
 荒廢 五〇八  
 くいきよくてんわう(皇極天皇) 五〇七  
 皇極天皇 五〇七  
 くいごうぐうぐ(皇治宮) 五二四  
 皇治宮 五二四  
 くいしう(広州) 四〇七  
 広州 四〇七  
 くいうてい(黄帝) 四〇七  
 黄帝 四〇七  
 くいうによ(皇女) 四〇七  
 皇女 四〇七  
 くいうはい(荒廢) ↓ 五二四  
 くいはい 五二四  
 くいぶつ(空王仏) 二〇六  
 空王仏 二〇六  
 くいのみやう(光明) 三三六  
 光明 三三六  
 くいえむ(火焰) 三三六  
 火焰 三三六  
 くいこ(過去) 四二二  
 過去 四二二  
 くいざんのほふわう(花山法皇) 二二七  
 花山法皇 二二七  
 けちやうさむまい(火定三昧) 三三二  
 火しやう三昧 三三二  
 けん(願) 二二二  
 願 二二二  
 けんおむ(觀音) 二二二  
 觀音 二二二  
 けんおむるん(觀音院) 三三二  
 觀音院 三三二  
 けんぎ(歡喜) 三三二  
 歡喜 三三二  
 けんしゆ(願主) 三三六  
 願主 三三六  
 けんたいし(卷第四) 二〇一  
 卷第四 二〇一  
 けんんにん(官人) 三三六  
 官人 三三六  
 けんぱく(關白) 三三六  
 關白 三三六  
 けんぱくだいじん(關白左大臣) 二〇三  
 關白左大臣 二〇三  
 けんへいのほふわう(實平法皇) 二〇三  
 實平法皇 二〇三  
 けんぱく(觀) 二〇三  
 觀 二〇三

くゑえ(帰依)

帰依

くゑえす(帰依)

帰依す

帰依するもの

帰依せむ

くゑす(帰す)

帰し(中止法)

帰し給す

帰す

くゑん(鬼難)

鬼難

くゑのぶてい(建武帝)

建武帝

くゑごむきやう(華嚴経)

華嚴経

くゑしん(化身)

化身

くゑそう(外僧)

外僧

くゑつししふ(月詣集)

月詣集

くゑつちやうわうじやう

(決定往生)

決定往生

くゑらく(化樂)

化樂

くゑんちやう(誓音)

誓音

くゑんるい(群類)

群類

け

け(偈)

偈

けうくわん丁(叫喚丁)

叫喚する(遠体法)

けうしゆ(教主)

教主

けうとむびくに(憐曇比尼)

けうとむ比血尼

けま(袈裟)

けま

けふ(今日)

けふ

けぶり(煙)

けかり

煙

けいづ(下劣)

下劣

けむ(劍)

劍

けむぎ(験記)

験記

けむじ(劍聖)

劍聖

けんしゆ(顯宗)

顯宗

けんしゆんもん(顯宗)

顯宗

(建春門院)

建春門院

建春門院

けんしん(現身)

現身

けんす(現す)

現し給

現して

けんせ(現世)

現世

けんぞくす(還俗す)

還俗したる

還俗

けんぞんしふ(現存集)

現存集

けんたり(現當)

現當

けんろ(洞露)

洞露

こ(へ)子 紅葉 四ウ4 心ある(連体法) 八オ6 二ウ2

こ 恒河河 四ウ1 国土 三オ3 ころろ(心得) 三六ウ1

子 恒河河 四ウ1 国母 九ウ2 心え給ましけれは 三六ウ1

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8 心うく 一〇オ2

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8 ころろ(心憂し) 一〇オ2

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8 ころろ(志) 一〇オ2

紅葉

恒河河

恒河河

恒河沙

恒河沙

弘法大師

弘法大師

こかす(焦す)

こかし給

こかはのくわんおむ(粉)

河観音

こかはの観音

こきやう(故郷)

故郷

こき心(古今) 歌集

古今

こく(虚空)

虚空

こくし(国司)

国司

こくろあり(心有り)

国司

こくど(国土)

国土

こくも(国母)

国母

こくらく(極樂)

極樂

こくわう(国王)

国王

こくわち(五月)

五月

こく(此所)

こく

こころ(心)

心

こころあり(心有り)

心

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

心ある(連体法)

ころろ(心得)

心え給ましけれは

ころろ(心憂し)

心うく

ころろ(志)

ごしゆじやく(後朱雀)

五道 三六五

位ゐにのほらんこと

九〇七

後朱雀

ことふ(答ふ)

一〇五

かはることなく

九七一

ごしゆじやくのゑん(後朱雀院)

ことへ侍けし

心口ゆるすこと

あらぬこと

九七四

ごしらかはのゑん(後白川院)

こと(語)

うてもすることなく

鳴たゆるること

一〇七一

後朱雀院

こと(事)

水みづにぬるることなし

かはること

一〇二二

ごしらかはのゑん(後白川院)

こと(事)

しつむことなし

ゆるすこと

一〇二六

後白川院

こと

うたかひをなすことな

たのしみ給こと

一〇二八

ごしらふ(游らふ)

こと

かれ

ひねといふこと

一〇三三

ごせ(後世)

こと

悪あくにはす、ぬること

したかひしこと

一〇三六

後世

「の事」

てぞ

察冒さつぼうし給へること

一〇四四

後世

吾朝わがとものこと

しりたまへること

とけむこと

一〇五〇

後世

吾朝わがとものこと

人のかすのうすること

すつること

一〇五一

ごぞで(小袖)

長徳ちやうとく元年のこと

五々四

いひたかふこと

一〇五八

ごぞで

かやうのこと

六〇六

いて給こと

一〇六四

ごせもん(後世門)

しほしのこと

たゆること

まいりあふこと

一〇六六

後口門

衆生しゆじやうのこと

七〇四

みたてまつること

一〇七三

ごだいきみ(小太君)

ゆかたのことが

まぬかるまじきこと

きくこと

一〇七九

小太君

やすきほどのこと

はかなくならせ給てと

怖意おそといふことは

一〇八七

ごだいさん(五台山)

マと人口こと

透とほなること

はかなくならせ給てと

一〇九七

五台山

「連体形+事」

はかなくならせ給てと

はかなくならせ給てと

一〇九七

ごだう(五道)

「連体形+事」

はかなくならせ給てと

はかなくならせ給てと

一〇九七

由こと	三九七			ことうけ	三〇〇	このたび(此度)	
往生せむこと	三〇一	ゆるすこと	三五〇	ことごとくに(悉くに)	三〇〇	このたび	三二四三五七
たかふこと	三〇三	めてたきこと	三七〇	こと／＼くに	三五二	このむ(好む)	
差別あること	三〇二	□ <sup>〓</sup> たく侍こと	三〇七	ことども(事共)		このみて	一四六二〇一
すくふこと	三〇二	まぬかるゝこと	三九〇	ことども	三二七	このめば	一四八
うしろめたきこと		の給ことなり	四〇三	ことなり(異なり)	三〇六三八〇	こひゆく(乞請く)	
のぞくこと	三〇四	おこたること	四三〇	ことにて	四五〇	こひうけたてまつるな	
見たてまつらんこと	三〇六	やむこと	四三〇	ことわりなり(理なり)		りどせ	三三〇
		むまれずといふこと	四三〇	ことほりにて	三三〇	こひうけて	三〇七
いやすこと	三〇七	わたるべきこと	四三二	この(此の)	三二五	こひやく(五百)	三〇三
し	三〇一	たちけること	四三二	この	三二五	こひ(乞ふ)	
いやすこと	三〇一	あらはすこと	四五七	こと	三二五	こひければ	四五二
うたかひをなすこと	三〇一	かへること	四五七			こほり(氷)	
		かへること	四五七			こほり(部)	
いたてたてまつれること	三〇七	生ずること	四六〇			こほる(零る)	
と	三〇七	「遠体詞ナこと」	四六〇			こほれし	二〇九
やめ給こと	三〇七	このこと	六〇〇			こまかなり(細なり)	
いかなることか	三〇七	かゝること	三二五	此	三二五	こまかには	六〇七
ふせき給はむことを	三〇七	□と	三二五	口の	三二五		三二五
密 <small>ひそ</small> に <small>か</small> すること	三〇七	ことうけ(言承け)	三二五				



罪人 ミツリ

さいのみめう (齊威王) ミツヲ

奇威王 ミツヲ

さう (相) ミツヲ

さう ミツヲ

相 ミツヲ

さう (左右) ミツヲ

左右 ミツヲ

さうおうくわしやう (相

応和尚) ミツヲ

相応和尚 ミツヲ

さうにん (相人) ミツヲ

相人 ミツヲ

相人 ミツヲ

さうもく (草木) ミツヲ

草木 ミツヲ

さうりむじ (雙林寺) ミツヲ

雙林寺 ミツヲ

さかり (盛) ミツヲ

さかり ミツヲ

さき (前) ミツヲ

さき ミツヲ

さきだつ (先立つ) ミツヲ

さきたつ (連体法) ミツヲ

さきら (老ら) ミツヲ

さきら ミツヲ

さく (糸) ミツヲ

さく ミツヲ

さく (咲く) ミツヲ

さく ミツヲ

さきなは ミツヲ

さけ (酒) ミツヲ

さけ ミツヲ

さけふ (左脇) ミツヲ

左脇 ミツヲ

さす (射す) ミツヲ

さす ミツヲ

さす (差す) ミツヲ

さす ミツヲ

さす (刺す) ミツヲ

さしたてまつらんと ミツヲ

さす (座主) ミツヲ

座主 ミツヲ

さそふ (誘ふ) ミツヲ

さそはれ ミツヲ

さだいじん (左大臣) ミツヲ

左大臣 ミツヲ

さだめて (定て) ミツヲ

定て ミツヲ

さづく (授く) ミツヲ

さづけ給は ミツヲ

さつけて ミツヲ

さて (然て) ミツヲ

さて ミツヲ

さと (里) ミツヲ

里 ミツヲ

さとびと (里人) ミツヲ

さと人 ミツヲ

さば (生飯) ミツヲ

さは ミツヲ

さぶらふ (候ふ) ミツヲ

候けるに ミツヲ

被候 ミツヲ

さらば (然らば) ミツヲ

さらば ミツヲ

さる (去る) ミツヲ

さる ミツヲ

さるほどに (然る程に) ミツヲ

さるほどに ミツヲ

それとも (然れども) ミツヲ

それとも ミツヲ

それば (然れば) ミツヲ

それば ミツヲ

さん (算) ミツヲ

算 ミツヲ

さむあくだう (三悪道) ミツヲ

三悪道 ミツヲ

さむぐわち (三月) ミツヲ

三月 ミツヲ

さむげうしくる (三教指

帰) ミツヲ

三教指帰 ミツヲ

さむじぶさむ (三十三)

三十三 ミツヲ

さむしや (三車) ミツヲ

三車 ミツヲ

さむしやく(三尺)

山王

六〇二

三尺

さむゐのちうじやうしば

さむせ(三世)

う(三位中将師房)

三世

三位中将師房

さむづ(三途)

し

さむでうゐん(三糸院)

し(師)

三糸院

師

さむでうゐんいちほむの

みや(三糸院一品宮)

し(死)

三糸院一品宮

死

さむびく(三毒)

しう(衆)

三毒

しう

さむにん(三人)

しうごにん(守護人)

三人

守護人

さむのきみ(三君)

しうのぶわう(周武王)

三君

周武王

さむほう(三宝)

しうりほんどく(周梨般)

三宝

詩

三寶

周梨般詩

三寶

しがい(四海)

さんわう(山王)

四海

しがい(死敵)

重信

死敵

三〇八

しげる(繁る)

七七一

しかのみならず

しけり(中止法)

しかのみならず

五〇四

しかりといへども(然雖)

じごふじとくくわ(自業自得果)

しかりといへども

自得果

しかりといへども

自業自得果

しかれども(然)

しし(穴)

しかれども

し

しかれども

しし(獅子)

しきしすき(色紙流)

しし

色紙すき

口子

色紙すき

口子

しく(死苦)

しきれんぐゑ(四色蓮花)

死苦

花色

しぐる(時雨)

ししのざ(獅子座)

しぐる

ししのざ

しくる(連体法)

師子の座

しける

紫宸

しげいへのせうしやう

紫宸

(重家少将)

しす(死す)

重家少将

死するゆへに

しげのぶ(重信)

した(下)

しげのぶ

した

した	二九〇一 三〇〇四	したかふ(随ふ) (四段)	七宝	三〇一 六〇三 八〇七	しほ(四府)	三〇一〇	じふろくぶん(十六分)	三〇〇八
したかひし	三〇〇四	したかふ(随ふ) (下二段)	しつだたいし(悉陀太子)	二四〇四	じふあく(十悪)	三〇〇二	じふみせう(拾遺抄)	八〇〇八 三〇〇九 四〇〇一
したかへむがため	三〇〇三	しつむ(沓む) (四段)	しつむ(沓む) (下二段)	二〇〇四	じふにんにん(十二人)	二〇〇二	しむ(染む)	二〇〇八
したしむ(親む)	四〇〇八	しつむ(沓む) (下二段)	しつめて	一〇〇二	じふにんにん(十二人)	二〇〇二	しまんびく(指鬘比立)	四〇〇二
したつ(為立つ)	三〇〇一	してんゆうじ(四天王寺)	四天王寺	三〇〇七	じふにんにん(十人)	三〇〇一	しも(霜)	四〇〇四
したてたるに	九〇〇八	しぬ(死ぬ)	しぼんと	三〇〇七	じふねん(十年)	三〇〇七	しもつみち(下道)	五〇〇六
しちぐわち(七月)	二〇〇一	死ぬるぞ	しのきみ(四君)	二五〇三	じふほう(十方)	三〇〇三	下つ道	五〇〇六
しちさい(七歳)	二七〇六	四君	しば(四馬)	一八〇一	じふほうせかい(十方世界)	三〇〇四	じやうえ(淨衣)	二五〇三
七歳	九〇〇四	しばし(暫し)	しばし	二〇〇二	じふりんぎやう(十輪經)	四〇〇三	上衣服	二五〇三
しちじふ(七十)	二〇〇一	じひ(慈悲)	じひ(慈悲)	二〇〇四	十輪經	四〇〇三	正覚	三〇〇一 二〇〇四 三〇〇五 五〇〇二
しちでうどの(七条殿)	二〇〇一	慈悲					将軍	七〇〇三
七度	二〇〇一						将軍	七〇〇三
しちぶんがいち(七分一)	二〇〇三						将軍	七〇〇三
七分一	二〇〇三						将軍	七〇〇三

正教

三三〇

しやうにん(聖人)

五六三

只迦如采

三六三

沙門

四〇八

しやうご心(莊嚴)

三〇八

聖人

三〇七

しやくおうしゆん(釈迦)

舍利(舍利)

二四〇

莊嚴

三〇八

聖人

三〇七

俊

舍利

二四〇

じやうさいもんのみん

じやうぶつ(成仏)

三八二

釈雄俊

しやりほつ(舍利弗)

四二〇

(上西門院)

じやうぼんわう(淨飯王)

二四二

しやくそん(釈尊)

二〇六

しやりほつせんじや(舍利弗尊者)

三〇一

上西門院

九〇八

じやうぼんわう(淨飯王)

二四二

釈尊

舍利弗尊者

三〇一

しやうし(生死)

二〇三

じやうもくてんし(淨目天子)

四七

じやくてう(寂超)

しゆ(宗)

三〇六

生死

二〇三

じやうもくてんし(淨目天子)

四七

寂超

宗

三〇六

八三三 三〇四 三〇五

しやうす(生ず)

四六三

淨目天子

四七

じやくてう(寂超)

じゆ(呪)

三〇四

生ずること

四六三

しやくもん(聲聞)

四七

じやくねん(寂念)

じゆ(呪)

三〇四

しやくす(請す)

三〇四

しつうりやう(清涼)

三八七

じやくねん(寂念)

じゆ(呪)

三〇四

請して

三〇四

しつうりやう(清涼)

三八七

寂然

主基(主基)

六〇八

じやうせつ(淨刹)

二四七

しやうれん(青蓮)

三〇

しやば(娑婆)

しゆぎやう(修行)

三〇四

じやうび(浄土)

二四七

青蓮

三〇

娑婆

修行

三〇四

浄土

二〇一 九〇一

しやか(釈迦)

三〇

しやべろ(差別)

しゆぎやうす(修行す)

二〇三

浄土

二〇一 九〇一

釈迦

三〇

差別

修行し給

二〇三

浄土

二〇一 九〇一

只迦

二四二

しやみ(沙弥)

修行せざる

四〇一

じやうとうもんのみん

しやかにぶらい(釈迦如采)

三〇一

しやみ(沙弥)

しゆじやう(衆生)

二〇二 二〇三 三〇三

(上東門院)

しやかにぶらい(釈迦如采)

三〇一

沙弥

衆生

二〇二 二〇三 三〇三

上東門院

二〇一

只迦如采

三〇一

しやもん(沙門)

三〇三 三〇四 三〇五

上東門院

二〇一

只迦如采

三〇一

しやもん(沙門)

三〇三 三〇四 三〇五

三六〇七 三九〇四 三〇三三 三三〇四

衆口シラコ 三六〇四

しゆすシユス（修す）

修して 三〇七

修するは 二〇七

じゆすジユス（誦す）

誦シユスは 三五〇

しゆたシユタつツ（須達）

須達シユタ 三〇二

しゆたシユタつツちチやヤうウじジやヤへヘ須

達ダツ長チヤウ者ジヤヘ）

須達長者シユタチヤウジヤヘ 三〇四

じゆぢジユヂすス（受持す）

受持シユヂせんセンものモノ 三〇一

しゆつシユツけケすス（出家）

出家シユツケス 三〇四 四〇一 二四〇七

一七〇四 一七〇五 一七〇六 一七〇七

しゆつシユツけケくクどドくクキキやヤうウ

（出家功徳経）

出家功徳経シユツケクドクキヤウ 一五〇六

出家功徳経シユツケクドクキヤウ 三〇三

しゆつシユツけケすス（出家す）

出家したる 一五〇七 二〇一

出家しつる 一五〇二

出家して 一七〇二 一八〇七

出家すれば 一五〇七

出家せざる 一五〇一

出家すへし 一八〇一

しゆつシユツけケとトんンせセいイすス（出

家遣世す）

出家遣世して 二〇二

出家遣世して 二〇二

出家遣世して 二〇二

出家遣世して 二〇二

出家遣世して 二〇二

出家遣世すへきなり 一七〇三

出家遣世する（蓮体法） 二〇〇 二四〇

出家遣世せむ 三〇四

しゆつシユツしシやヤうウほホだダいイしシむム

（出生菩提心経）

出生菩提心経シユツシヤウホダイシム 三〇三

出生菩提心経シユツシヤウホダイシム 三〇三

しゆつシユツりリ（出離）

出離シユツリ 三〇三 三〇六

しゆびシユビやヤうウ（衆病）

衆病シユビヤウ 三〇三

しゆみシユミ（須弥）

須弥シユミ 一〇四

しゆみシユミせんセン（須弥山）

須弥山シユミセン 三〇六

しゆんシユンゑエほホふフしシ（俊恵法

師） 俊恵法師シユンエホフシ 一〇七

じよジヨ（自余） 自余ジヨ 一〇五

しよシヨうウ（証・證） せうシヨウ 五〇四

証シヨウ 三〇二

しよシヨうウくク（証空） 証空シヨウク 三〇三 三〇六 三〇七

しよシヨうウくクあアじジやヤりリ（証空

阿闍梨） 証空阿闍梨シヨウクアジヤリ 三〇四

しよシヨうウくクわワ（証果） 証果シヨウクワ 三〇四

証果シヨウクワ 四〇四

しよシヨうウ々々（証左） せうシヨウ 三〇三 三〇六

しよシヨうウすス（称す） 称すシヨウス 三五〇

しよシヨうウねネむムすス（称念す） 称念してシヨウネムス 三五〇

しよシヨくクしシくクわワしシふフ（続詞

花集） 続詞花集シヨクシクワシフ 三〇五

しよシヨざザんン（諸山） 諸山シヨザン 三〇五

しよシヨじジ（諸寺） 諸寺シヨジ 三〇五

しよシヨしシよヨ（前々） 前々シヨシヨ 三〇五

しよシヨせセうウ（諸僧） 諸僧シヨセウ 三〇六

しよシヨぶブつツ（諸仏） 諸仏シヨブツ 三〇七 三〇八 三〇九

じよジヨうウ（二郎） 二郎ジヨウ 二四〇

しりかわ(膏糠)

膏糠 一〇九二二七

しる(知る)

しる(知る) 三三〇

しうす

しうす 三三〇

しうぬとも

しうぬとも 三三〇

しり(中止法)

しり(中止法) 三〇四

しりたまへる

しりたまへる 三〇四

しりて

しりて 三三〇三〇

しりぬ

しりぬ 四〇二

しる

しる 三三〇四〇

しるども

しるども 三〇四

しるし(印)

しるし(印) 三〇七

しるす(印す)

しるす(印す) 六二二

しるすに

しるすに 六二二

しるせり

しるせり 六二二

しるせる

しるせる 四〇二

しる(四位)

しる(四位) 四〇二

しん(信)

しん(信) 三三〇六六

信

しん(信) 三三〇

信

しんか(臣家)

臣家 三三〇

しんこうくわうごう(神功皇后)

神功皇后 六二二七〇二

しんごん(真言)

真言 三三〇三〇

しんごん(真言) 三三〇三〇

真言 三三〇三〇

信

しんたん(震旦)

震旦 三三〇

震旦

しんたん(震旦)

震旦 三三〇

信乃

信乃 四六二四六

するに	二〇一	すく(過ぐ)	三三	すこしの	三三	すむ(住む)	三三
するを	四〇六	すきぬる	七〇六	すこしも(少しも)	五〇二	すみける	三三
すれども	二〇六	すくる(連体法)	三三	すこしも	五〇二	すむ(澄む)	三三
せで	一五三	すくす(過す)	七〇七	すすむ(違む)	四〇六	すめる日	三三
せん	二一四	すくすほど	七〇七	すゝめる	四〇六	する(滞る)	一〇六
せり	七〇三	すくみし(少し)	七〇七	すたれ(簾)	三三	すり(中止法)	一〇六
すいきす(随喜す)	三三	すくなく(中止法)	四〇三	すつ(捨つ)	一〇七	すへ(中止法)	三三
随喜し(中止法)	三三	すくふ(扱ふ)	四〇三	すつることは	一〇七	すへたてまつりたうん	三三
すいぐだりに(随求陀羅尼)	三三	すくひ(中止法)	四〇三	すて	一〇七	す急(不)	三三
随求陀羅尼	三三	すくひ給	四〇三	すてに	一〇七	すへ	三三
すいしやく(垂跡)	三三	すくふ(連体法)	三三	すてにあひ(捨あふ)	一〇七	せ	三三
垂跡	三三	すくる(勝る)	三三	すてあはれさなり	一〇七	せいめい(普願)	三三
すいへい(衰幣)	三三	すくると	三三	すてに(既に)	一〇七	せいす(制す)	三三
衰幣	三三	すくれたり	三三	すてに	一〇七	せいせしかども	三三
すがた(姿)	三三	すけたふのじじう(助任)	三三	すなはち(即ち)	一〇七	せいめい(清明)	三三
すかた	三三	侍従	三三	すなはち	一〇七	清明	三三
すきゆく(過行く)	三三	助任侍従	三三	すみやかなり(遠なり)	一〇七	せいりやく(清涼)	三三
すきゆく	三三	すこし(少し)	三三	すみやかに	一〇七	清涼	三三
六〇七				遠なる(連体法)	一〇七		

せうしやみ(少沙弥)

せむ(攻む)

せんご(前後)

せんじゆだらにきやう

少沙弥

せむる手

前後

千手陀羅尼經

せうせう(少々)

せめ給ひ

せんごん(善根)

せんぞう(千僧)

せうく

せめ給し

善根

千僧

少々

せめむ

せんざいしやうきよゆき

せんだら(梅陀羅)

三十一番の三十一

せめりる口

のきやう(善宰相清行御)

梅陀羅

せうえいの(照業珠)

せむぬ(施無畏)

善宰相清行御

せんだん(梅檀)

照業珠

施無畏

善宰相清行御

梅檀

せうぢよす(消除す)

せめ(攻め)

せんざいどうじ(善財童子)

せんだんかう(梅檀香)

消除しぬ

せめ

善財童子

梅檀香

せうぬ(魚鱗)

せろ(世路)

せんしろひやくにん(千七百)

せんぬん(千年)

魚鱗

世路

千七百

千年

せうぬ

せん(善)いちせん

せんしやうびく(善聖化)

せんぬまんぬん(十年)

魚鱗

善

善聖化

十年

せうぬん(少年)

せんり(善友)

せんしやうびく(善聖化)

十年

少年

善友

善聖化

十年

せす(施す)

せんく(前駆)

せんしゆ(千手)

せむ心く(瞻蔔)

施す

前駆

千手

瞻蔔

せつほふ(説法)

せんけんやくわう(善見)

千手

せむ心く(瞻蔔)

説法

善見

千手

瞻蔔

せなひ(華中)

せんけんやくわう(善見)

千手陀羅尼

せんみやうてんし(善明天子)

華中

善見

千手陀羅尼

善明天子

せなひ

善見華王

千手陀羅尼

善明天子

三十一

ぜんむるさむざう (善無)

畏三蔵

善無畏三蔵

二一〇

せんりのはま (千里浜)

千里の浜

二一〇

そ

そ (僧)

僧 一五〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

三三〇 四〇 四〇 四〇 四〇

四〇 四〇 四〇 四〇 四〇

四〇 四〇 四〇 四〇

僧

僧 (僧祇)

僧祇

僧 (奏す)

奏して

奏して 三三〇

そののたいし (宋太子)

宋太子 五〇

そのひつ (僧弼)

僧弼 四〇

そこ (其処)

そこ

そこそはく

そこそはくの

そそく (漉く)

そそくがゆへに

そで (袖)

そで 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

その (其)

その 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

そのの (其)

そのの 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

そのの (其)

そら

そら (判る)

そら 三三〇

そら (中止法)

そら 三三〇

それ (其)

それ 三三〇

それゆゑ (其故)

それゆゑ 三三〇

それゆへに

それゆへに 三三〇

ぞんじやう (存生)

ぞんじやう 三三〇

た (田)

た 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た

た (田)

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

たいし (太子)

太子 三三〇

たいし (太子)

だいじなり (大事なり)

たいしなる (連体法)

元字

だいしやう (大聖)

大聖

六〇

だいしやうくわんぜおひ

ほさつ (大聖觀世音菩薩)

大聖觀世音菩薩

六六

だいしやうせそん (大聖世尊)

大聖世尊

二二三

だいしやうふどうみやう

わう (大聖不動明王)

大聖不動明王

三三

だいしやうみやうわう (大聖明王)

大聖明王

三〇

大聖明王

三〇

だいしやうもんじゆ (大聖文殊)

大聖文殊

四〇

大聖文殊

だいじやうゑ (大管会)

大管会

七〇

大管会

六七

たいしよくむち (大食無智)

大食無智

四〇

だいじん (大臣)

大臣

四三

だいじんら (大臣等)

大臣等

二二

たいす (退す)

たいせし

四六

だいせう (大小)

大小

六二

だいせうねつ (大焦熱)

大焦熱

三〇

たいそう (佞索)

佞索

四三

だいだい (代々)

代々

六〇

だいたう (大唐)

大唐

五〇

だいち (大地)

大地

五二

大地

五九

だいちごく (大地獄)

大地獄

五九

だいなごん (大納言)

大納言

四七

だいなごんちうぐうのた

いふよしのぶ (大納言中宮大夫能信)

大納言中宮大夫能信

四九

だいなごんとうぐうのた

いふよりむね (大納言春宮大夫頼宗)

宮大夫頼宗

四四

だいに (第二)

大納言春宮大夫頼宗

四四

だいはだつた (提婆達多)

提婆達多

二二

だいはんにやきやう (大般若經)

般若經

三二

だいはんにやきやう (大般若經)

大般若經

三二

だう (堂)

大般若經

三二

だいひ (大悲)

大口

三三

だいひく (大悲苦)

大悲苦

三六

だいひしむ (大悲心)

大悲心

三六

だいひじんじゆ (大悲神咒)

大悲神咒

三九

だいらむしやうじや (大林精舎)

大林精舎

三九

だいろくてん (第六天)

第六天

五〇

だいわう (大王)

大王

三三

だいらんけうしゆ (大恩教主)

大恩教主

三三

だいらんけうしゆ (大恩教主)

大恩教主

三三

だいらんけうしゆ (大恩教主)

大恩教主

三三

堂ドウ 三三〇 三三〇

だう (道)

道ドウ 三三〇

だうしむ (道心)

道心ドウシン 一〇二 一〇五 一〇八

一〇六 一〇一 一〇三 一〇七

三三〇 三〇一 三〇三 三〇七

道心ドウシン 一〇二 一〇五 一〇八

道心ドウシン 一〇二 一〇五 一〇八

たうど (唐土)

唐土タウト 四〇一

だうによ (道如)

道如ダウヨ 三三〇

たうりてん (初利天)

初利天シュリテン 三〇一

たかあきらめたいしやう

(高明大将)

高明大将 三三〇

たかがり (鷹狩)

たかがり 三三〇

たかし (高し)

たかう 一〇二

高タカ (連体法) 三三〇

たがふ (嬉ぶ)

たかふ (連体法) 三三〇

三三〇

たかまつどののうへ (高松殿上)

高松殿上へ

高松殿上へ 三三〇

たかまつのみん (高松院)

高松院 三三〇

たかみつのせうしやう (高光少将)

高光少将 三三〇

たから (宝)

宝タカラ 三三〇

たきぐち (滝口)

滝口タキグチ 三〇一

たく (焼く)

たくかと 三三〇

たしかなり (礎なり)

たしかの往生タシカノウシヤウ 一〇三

たしやう (多庄)

多庄タシヤウ 三三〇

たすかる (助る)

たすかり給へり 三三〇

たすく (助く)

たすけ (中止法) 三三〇

ただ (唯)

た、 一〇一 一〇三 一〇七

五〇三 三〇三 三〇七

ただし (但し)

たし 三三〇

たしはなのよしとし (橋能俊)

橋能俊ハシノブ 三三〇

たちまちに (忽に)

たちまちに 三三〇

たつ (立つ) (四段)

たちける 三三〇

たちたまへる 三三〇

たつと 三三〇

たつやうに 三三〇

たつたる 三三〇

たつ (立つ) (下二段)

たて、 三三〇

たづぬ (尋ぬ)

たつぬれば 三三〇

たてまつる (奉る)

たてまつりしを 三三〇

たてまつりて 三三〇

たてまつる (奉る) (補助詞)

たてまつる (奉る) (補助詞)

かけたてまつらざらむ 三三〇

かたざりたてまつらで 三三〇

は 三三〇

見たてまつらん 三三〇

かはりたてまつらん 三三〇

ぞしたてまつらん 三三〇

見たてまつり (中止法)

かたりたてまつりける 三三〇

とみたてまつりければ 三三〇

すへたてまつりたらん  
三才二

くしたてまつりて  
三才一

はしめたてまつりて  
六才八

信じたてまつりて  
三才一  
三才一

たのみたてまつりて  
三才六

おもはれたてまつりて  
三才六

あふきたてまつりて  
三才六

あてなひたてまつりて  
三才六

つくりたてまつり待けるに  
三才四

見たてまつる(運体法)  
三才三

こひうけたてまつるな  
三才三

り  
三才五

念したてまつるべきな  
三才二

たのみたてまつるべき  
三才一

おくられたてまつるべきなり  
三才一

みたてまつるもの  
三才五

いたきたてまつる物  
三才二

いたてたてまつれる  
三才一

みたてまつれる  
三才一

あひた  
三才一

たとひ(喩ひ)  
三才一

たとひ(喩ひ)  
三才一

たとへば(喩は)  
三才一

たとへば  
三才一

たのし(樂し)  
三才一

たのし(樂し)  
三才一

たのしくして  
三才一

たのしみ(樂しみ)  
三才一

たのしみ  
三才一

たのしみ(頼み)  
三才一

たのむ(頼む)  
三才一

たのみたてまつりて  
三才一

たのみたてまつるべき  
三才一

たのみて  
三才一

たのもし(頼もし)  
三才一

たのもしくぞ  
三才一

たのもしきかなや  
三才一

たのしくぞ  
三才一

たはぶれ(戯)  
三才一

たわふれ  
三才一

たび(旅)  
三才一

たび(度)  
三才一

たひ  
三才一

たのもしきかなや  
三才一

たのしくぞ  
三才一

たはぶれ(戯)  
三才一

たわふれ  
三才一

たび(旅)  
三才一

たび(度)  
三才一

たひ  
三才一

たふさ 二四一  
 たふとぞ (尊さ) 二四二  
 たうとぞ 二四三  
 たふとし (尊し) 二四四  
 たふとき (連体法) 二四五  
 貴<sup>タキ</sup>には 二四六  
 たへなり (妙なり) 二四七  
 妙にして 二四八  
 たま (玉) 二四九  
 たま 二五〇  
 五 二五一  
 たましひ (魂) 二五二  
 たましひ 二五三  
 たま<sup>タマ</sup> (適々) 二五四  
 たま<sup>タマ</sup>く 二五五  
 たまふ (給ふ) 二五六  
 たまひ (中止法) 二五七  
 たまふ (給ふ) (補助動詞) 二五八

いてたまはさりせば 二五九  
 いて給はさりしか 二六〇  
 よろこひ給はず 二六一  
 うらみ給はず 二六二  
 うとみ給はず 二六三  
 にくみ給はず 二六四  
 うやまひ給はず 二六五  
 あさむぎ給はず 二六六  
 せうさもし給はぬぞ 二六七  
 さつけ給はず 二六八  
 ふせぎ給はむことを 二六九  
 やとりたまひしより 二七〇  
 正覚<sup>マカサ</sup>なりたまひて 二七一  
 射<sup>ヤ</sup>られ給ひ (中止法) 二七二  
 まぬかれ給ひ (中止法) 二七三

かくそよみ給ひける 二七四  
 僻<sup>ヒナ</sup>し給き 二七五  
 いて給き 二七六  
 せめ給けり 二七七  
 もとめ給けり 二七八  
 かくそよみ給ける 二七九  
 よみ給ける 二八〇  
 なり給けるころ 二八一  
 むかひ給ける時<sup>トキ</sup> 二八二  
 なき給けるを 二八三  
 かしこまり給けるを 二八四  
 し給けれども 二八五  
 いて給けれども 二八六  
 とひ給ければ 二八七  
 見給ければ 二八八  
 いたり給ければ 二八九  
 とぞうせ給ければ 二九〇  
 みちひき給けむ 二九一

せめ給し時<sup>トキ</sup> 二九二  
 とき給し時<sup>トキ</sup> 二九三  
 のりとき給し時<sup>トキ</sup> 二九四  
 うつり給しゆふへ 二九五  
 おこし給しをば 二九六  
 あきみち給しをり 二九七  
 いて給たる時<sup>トキ</sup> 二九八  
 ほめ給て 二九九  
 うちとり給て 三〇〇  
 おもひいり給て 三〇一  
 まいり給て 三〇二  
 ねいり給て 三〇三  
 のほり給て 三〇四  
 みひはなち給て 三〇五  
 をりせ給て 三〇六  
 ことうけ口給てき 三〇七  
 つくりてくれ給てき 三〇八  
 うせせ給にき 三〇九

うせ給にけり	キヲ	おとし給	ヨオ	ほうせんとし給に	四〇	ころし給へ	五三
なり給にける	二五	なため給	三〇	いて給にあらす	四〇	え給へり	三〇
かへり給にけるのち	ナシ	おち給	三〇	まうけ給べきなり	二〇	すかり給へりける	四〇
崩給ぬ	キニ	こかし給	三〇	いとなみ給べきなり	三〇	こもりぬ給へりけるに	三〇
はらみ給ぬ	キニ	とふうひ給	三〇	のり給べきなり	二〇	あひ給へりけるにも	四〇
うせ給ぬ	キニ	現し給	三〇	もとのめ給べきなり	三〇	ふし給へりけるを	四〇
いのり給ふ	キニ	響し給	三〇	いのり給べきなり	二〇	あつまり給へりし	三〇
よろこび給	二〇	体法)	九〇	ねかひ給べきなり	三〇	しりたまへる	五〇
こもり給	二〇	たのしみ給(連体法)	二〇	いて給べし	二〇	たちたまへる	五〇
みちみぎ給	二〇	いて給へ(連体法)	二〇	まぢ給べきなり	三〇	としをい給へる	五〇
はくくみ給	二〇	いのりやめ給(連体法)	二〇	いて給べし	二〇	うせ給へる	五〇
見給	二〇	かくはし給ぞ	三〇	いのり給べし	三〇	繁昌し給へる	四〇
のそぎ給	二〇	なけき給ぞ	三〇	はり給べし	二〇	心うこぎ給へる	四〇
いやし給	三〇	かぎ給ぞかし	三〇	見給べし	三〇	はらひる給へる	三〇
すくみ給	三〇	をかみ給とこそ	二〇	え心え給まじければ	五〇	し給へるな□り	三〇
かはり給	三〇	いて給とも	一〇			したまへるなめりとして	
あら口し給	三〇	おかみ給なり	三〇				
くはれ給	三〇	のせ給なり	三〇				
あはせ給	三〇	響し給なり	三〇				
いられ給	三〇	あそひ給に	三〇				
いのり給	三〇						

かぎ給へるなり 四〇  
修行し給 一〇  
たむのみね(多武峯) 一〇  
多武峯 一〇

ため(為) 一〇  
衆生のため 二〇  
「ためなり」 二〇

1 連体形+ためなり  
もとめむためなり 四〇

2 ためなり  
われらがためなり 三〇

したかへむがためなり 三〇

「ために」  
1 ために 三〇  
ふせかんがために 三〇

ほめられんがために 二〇

道如がためには 三〇  
王氏がためには 三〇

2 のために 五〇  
徽宗王のために 五〇  
ともからのために 二〇

死のために 二〇  
たもつ(保つ) 二〇  
たもち(中止法) 四〇  
たやすし(た易し) 三〇

たやすく 三〇  
たゆ(絶ゆ) 三〇  
たえて 五〇  
たゆる(連体法) 七〇

たらう(太郎) 四〇  
太郎 四〇

たれ(誰) 三〇  
たれ 三〇

たんどのかみためただあ  
そむ(丹後守為忠朝臣)  
丹後守為忠朝臣 二〇

たんどくくに(丹後国) 六〇  
たのくに 六〇  
たんじやう(誕生) 二〇  
誕生 二〇  
誕生 二〇

ち 二〇  
ち(血) 二〇

ち(乳) 二〇  
ち 二〇  
ち 二〇  
ち(地) 五〇  
地 五〇

ち(瘰) 三〇  
ちういん(仲胤) 三〇  
仲胤 三〇

ちうう(中有) 三〇  
中有 三〇  
ちうざい(重罪) 五〇  
重罪 五〇

ちうすいほうしゆ(住水宝珠) 二〇  
住水宝珠 二〇

ちうだう(中堂) 二〇  
中堂 二〇  
ちうちう(重々) 二〇  
重々 二〇

ちうなごんよしちか(中納言義懐) 二〇  
中納言義懐 二〇  
ちうびやう(重病) 三〇  
重病 三〇

ちうりふ(住侶) 三〇  
住侶 三〇  
ちかい(持戒) 三〇  
持戒 三〇

ちかし(返し) 三〇  
ちかうは 三〇  
ちかき(連体法) 三〇  
ちかく 三〇

ちかづく(近付く) 三〇  
ちかつき(中止法) 二〇

ちから (カ)

ちから

三二五

カ

三二五

カ

三二五

ちぎり (契)

ちぎり

三二五

ちこう (智興)

智興

三二五

智興

三二五

ちごく (地獄)

地獄

三二五

ちごく

三二五

ちざう (地蔵)

地蔵

三二五

地蔵

三二五

地蔵

三二五

ちざうかう (地蔵講)

地蔵講

三二五

ちざう (地蔵等)

地蔵等

三二五

ちざうぼさつ (地蔵菩薩)

地蔵菩薩

三二五

地蔵菩薩

三二五

三二五

ちしや (持者)

持者

三二五

ちしようだいし (智証大)

師

智証大師

三二五

ちしん (智臣)

智臣

三二五

ちす (治す)

治す

三二五

ちし (中止法)

治せぬ

三二五

ちち (父)

父

三二五

ちち

三二五

ちひさし (小し)

ちひさし

三二五

ちぬさし

三二五

ちやう (定)

申し、定

三二五

ちやうあんくう (長安宮)

長安宮

三二五

長安宮

三二五

ちやうごふ (定業)

定業

三二五

定業

三二五

ちやうじや (長者)

長者

三二五

ちやうだい (長大)

長大

三二五

ちやうとくぐわんねん (長徳元年)

長徳元年

三二五

ちやうもん (聴聞)

聴聞

三二五

ちやうしやく (重職)

重職

三二五

ちやくせ (濁世)

濁世

三二五

ちらす (散す)

ちらして

三二五

ちりつもる (散積る)

ちりつもる

三二五

ちりつもる (連体法)

ちりつもる

三二五

ちる (散る)

ちり (中止法)

ちる (散る)

三二五

智恵

三二五

ちん (陣)

陣

三二五

陣

三二五

ちんせい (鎮西)

鎮西

三二五

鎮西

三二五

ついでん (追善)

追善

三二五

塚

三二五

つか (塚)

塚

三二五

塚

三二五

つかさ (司)

つかさ

三二五

つかはす (遣す)

つかはしけるに

三二五

つかひ (使)

つかひ

三二五

つかまつりびと(仕人)	四〇五	つかまつり人	四〇六	つかまつる(仕る)	四〇七	つかまつりけるが	一〇七	つかむ(把む)	四〇八	つかみで	四〇九	つき(次)	二五〇	つきころす(突殺す)	二五二	つきころして	四〇三	つき(着く)	二五三	つきけいば	四〇四	つきぬ	二五四	つき(付く)(下二段)	二五五	つきたり	四〇五	つく(盛く)	二五六																																																																																																										
つきて	四〇六	つぐ(告ぐ)	四〇七	つくる(作る)	四〇八	つくらマリけるを	一〇八	つくら□	四〇九	つくりたてまつり侍けるに	四一〇	つくりて	二五七	つくるに	四一一	つくりは	四一二	つち	二五八	つちかどのうだいじん	四一三	つちみかどのうだいじん	四一四	つちしむ(懐む)	四一五	つゝしみて	四一六	つとむ(む)	四一七	つどめて	四一八	つなく(継ぐ)	四一九	つなげども	四二〇	つねに(常に)	四二一	つねに	四二二	つはもの(兵)	四二三	つひに(終に)	四二四	ついに	四二五	つぶし(隙)	四二六	つみ(罪)	四二七	つみ	四二八	つむ(横む)	四二九	つみて	四三〇	つもる(積る)	四三一	つもりにけ口	四三二	つもるほとに	四三三	つゆ(露)	四三四	つゆ	四三五	て(手)	四三六	て(手)	四三七	て(朝)	四三八	てう(朝)	四三九	てう(朝)	四四〇	てう(朝)	四四一	てう(朝)	四四二	てう(朝)	四四三	てう(朝)	四四四	てう(朝)	四四五	てう(朝)	四四六	てう(朝)	四四七	てう(朝)	四四八	てう(朝)	四四九	てう(朝)	四五〇	てう(朝)	四五一	てう(朝)	四五二	てう(朝)	四五三	てう(朝)	四五四	てう(朝)	四五五	てう(朝)	四五六	てう(朝)	四五七	てう(朝)	四五八	てう(朝)	四五九	てう(朝)	四六〇	てう(朝)	四六一	てう(朝)	四六二	てう(朝)	四六三	てう(朝)	四六四	てう(朝)	四六五	てう(朝)	四六六	てう(朝)	四六七	てう(朝)	四六八	てう(朝)	四六九	てう(朝)	四七〇

天 二五〇

てんか(天下)

天下 四〇八

てんけうだいし(任教大

師) 六〇九

伝教大師 二六〇

大 二六〇

てんす(駈す)

てむじ(中止法) 二六〇

てんだいさん(天台山)

天台山 二六一

天台山 二六〇

てんじやう(天上)

天上 二六一

てんぢく(天竺)

天竺 二六〇

てんちてんけう(天智天

皇) 二六〇

天智天皇 二六〇

てんちやう(天聰)

天聰 二六〇

天聰 二六〇

てんどうぼう(天童鉢)

天童鉢 二六〇

てんぷ(田夫)

田夫 二六〇

てんらう(天老)

天老 二六〇

と

とうぐう(春宮)

春宮 二六〇

どうじ(童子)

童子 二六〇

とうだいじせむりむ(東

大寺禪林) 二六〇

とういす(渡海す)

渡海す 二六〇

とかく(副詞)

とかく 二六〇

とき(時)

そのときに 二六〇

からめとらむとせんと

き 二六〇

水いててふか、りける

とき 二六〇

物をならふ時は

在因の時 二六〇

神功皇后のせめ給し時

二六〇

仏祇園精舎におはしま

し、時 二六〇

仏よにいて給たる時

譬喩経とき給し時 二六〇

長大の時にいたるまで

のりとよ給し時 二六〇

時の名師時明を諸して

命終の時 二六〇

わかきみの時

十善の位にありし時は

二六〇

さらばその時 二六〇

ときつう(尚行)

口行 二六〇

ときに(時に)

ときに(時)ありて

于時 二六〇

ときのひと(時人)

時人 二六〇

ときのぶのせうしやう

(時叙少將) 二六〇

時叙少將 二六〇

ときは(常盤)(人名)

ときは 二六〇

とく(説く)

とき(中止法)

とき給し 二六〇

とけり 二六〇

説り 二六〇

とく(徳)

徳 二六〇

とぐ(透ぐ)

三三三三三六六六六六

いはねば

富(連体法)

三三三

とくる(連体法)

とし(疾し)

とはれりける

ともから(輩)

三三三

とけず

とく

とひければ

ともから

三三三

とけすして

としおゆ(年老ゆ)

とひければ

ともし(乏し)

三三三

とけむ

としない

とひし

ともし

三三三

とくちう(毒虫)

としをい給へる

とひたて

ともしからす

六六六

毒虫

としごろ(年来)

とひ給ければ

くもしく(中止法)

三三三

ところ(所)

としこ口

とぶらぶ(訪ふ)

とらふ(觸ふ)

三三三

ありしところ

とせつ(兎幸)

とぶらひ給

とらへつ

二二二

千里の浜といふ所

都幸

とふらへば

とらへられて

二二二

小野といふ所

とどのふ(整ふ)

とほぞ(疚)

とらへられぬ(き)

二二二

ひねといふ所

とどまりがたし(止難し)

とほぞ

とらへられぬ(き)

二二二

ところ(所)(形式名詞)

と、まりかたし

とほる(通る)

とらへからむ(痛む)

三三三

かくまへる所

とどむ(止む)

とまらせ給ければ

とらへからめて

三三三

ならふ所

と、め(中止法)

とまりはつ(止果つ)

と(り)候

三三三

ならふ所

との(殿)

とまりはつ(止果つ)

と(り)

四四四

どけん(土産)

との

とまる(泊る)

と(り)

四四四

土産

とのぼら(殿原)

とまりにけり

と(り)かひのめん(湯養乾)

三三三

とし(歳)

殿原

くむ(當む)

と(り)は(り)候(肌)

三三三

とし 五オナ六オナ三オナ

と(り)訪ふ

とめりし

と(り)候

三三三

とりはた 三三〇

とりべやまへ高部山 三三〇

とりへつゝ 三三〇

とる(取る) 三三〇

とらすへき 三三〇

とらせけるが 三三〇

とらせたり 三三〇

とらせたりければ 三三〇

とらせてけり 三三〇

とられて 三三〇

とり(中止法) 三三〇

とりたりと 三三〇

とりて 三三〇

日とりて 三三〇

どろ(泥) 三三〇

どろ 三三〇

とん(食) 三三〇

な(名) 五二五

名 五二五

名 五二五

名 五二五

ないきのにぶだうやうた 五二五

内(内記入道保胤) 五二五

内記入道保胤 五二五

ないし(内侍) 五二五

内侍 五二五

ないだいにじん(内大臣) 五二五

内大臣 五二五

ないだいにじんのまだいし 五二五

やうのりみうどの(内大臣左大将教道殿) 五二五

内大臣左大将教道殿 五二五

ないわうくわこ(乃往過) 五二五

乃往過 五二五

ないゐん(内院) 五二五

乃往過 五二五

内院 三三〇

なうらたす(惱乱す) 三三〇

惱乱すこと 三三〇

な(中) 三三〇

中 三三〇

ながし(長し) 三三〇

ながく 三三〇

ながむるもの 四〇三

ながめし 四〇三

ながたはぶる(鳴渡る) 四〇三

鳴たわぶる(鳴渡る) 四〇三

ながある(鳴居る) 四〇三

ながるたりければ 四〇三

なく(泣く) 三三〇

なき給けるを 三三〇

なく(連体形) 三三〇

なくなく(泣く泣く) 三三〇

なかりき 二一六ニヤ 二一六ニヤ  
なかりけり 二一六ニヤ  
なかりけれは 三三三  
なけれ 一六二  
なき(連体法) 一〇六  
なきが 一〇一  
なきなり 三三三  
なきは 一〇一  
なく(中止法) 一〇一  
なく(有心) 一〇一  
なため給 三三三  
なうのやま(那智の山) 三三三  
なつかし(懐し) 三三三  
なつかし(連体法) 三三三  
なづく(懐く) 三三三  
なづけて 一〇三  
なづく(名付く) 一〇三  
二万郷となづく 三三三  
なに(何) 三三三  
なに(何事) 三三三  
なに(こ) 三三三  
なぬか(七日) 三三三  
七日 三三三  
なほ(猶) 三三三  
なほ 三三三  
なほなほ(猶) 三三三  
なをく 三三三  
なまゆふくれ(生夕暮) 三三三  
なみた(涙) 三三三  
なみた 三三三  
なむ(詠む) 三三三  
なむる(連体法) 三三三  
なもあみだぶつ(南无阿弥陀佛) 三三三  
なもあみたぶつ 三三三  
なむ(詠む) 三三三  
なやめる 三三三  
ならひ(懐ひ) 三三三  
ならひ 三三三  
ならひある(並居る) 三三三  
ならひある給(入る) 三三三  
ならぶ(習ふ) 三三三  
ならぶ(連体法) 三三三  
ならぶ(並ぶ) 三三三  
ならひて 三三三  
なりあひのくわんおむ(成) 三三三  
なりあひのちうじやう(業房中将) 三三三  
なりあひのちうじやう(業房中将) 三三三  
なりのぶのちうじやう(延信中将) 三三三

三信申將 一四〇

なりひらのろうじやう

(兼平口將)

兼平中將 一三九

なる(成る)

ならまるが 一三九

ならしと 一三九

ならす 一三九

ならせ給 一三九

ならんと 一三九

ならむと 一三九

なり(甲止法) 一三九

二〇〇

なり給ける 一三九

なりたまひて 一三九

なり給にける 一三九

なり給へし 一三九

なりたり 一三九

なりて 一三九

二〇〇

二〇〇

二〇〇

三〇一

なりにけり 聖三〇

なりにけるかな 八〇一

なりにしかな 九〇六

なりぬ 三〇一

四〇四

なり侍にき 九〇四

なる 三〇二

なるべし 三〇六

なれり 六〇三

なん(難) 六〇三

難 六〇三

難 四〇一

なんかい(南海) 六〇一

なんぞ(何ぞ) 八〇五

何 八〇五

なんぢ(汝) 三〇三

汝 三〇三

なんでん(南殿) 七〇四

南殿 七〇四

なむと(南都) 七〇四

南都 一〇一

に

にぎのいへ(日記家)

日記家 七〇一

にぎる(遷る)

にきりて 三〇三

にきる 三〇三

にくむ(憎む)

にくみ給はず 三〇六

にしさかもと(西坂本) 三〇三

西坂本 三〇三

にしのごぜん(西御前) 六〇一

西御前 六〇一

にじふご(二十五)

二十五 三〇三

にじふご(二十五有)

二十五有 三〇三

にじふご(二十有)

二十有 三〇三

にせ(二世)

二世 三〇三

二世 三〇三

にだい(二代)

二代 三〇三

にだん(二段)

二段 三〇三

にでうおほみや(二条大宮)

二条大宮 三〇三

にでうつつみ(二条堤)

二条つみ 三〇三

にでうめん(二条院)

二条院 三〇三

ににん(二人)

二人 三〇三

にほ(庭)

にほ 三〇三

にほ(庭)

庭 三〇三

にほひ(匂)

にほひ 三〇三

にほんき(日本紀)

日本記 三〇三

にまん(二万)

二万 五万六千三百六十  
 にまんかう(二万郷)  
 二万郷 五万七  
 にまん(二万人)  
 二万人 五万七千六百一  
 によご(女御)  
 女御 五万六  
 によぼう(女房)  
 女房 五万七  
 によらい(如来)  
 如来 五万七  
 如来 五万七  
 による(似る)  
 にたり 一万三四万  
 にむ(仕)  
 仕 六万七  
 にんぎよのあぶら(人魚の油)  
 人魚油 一万七  
 にんげん(人間)  
 人間 三万六  
 にんじん(人身)

人身 四万一  
 にんにく(忍辱)  
 忍辱 三万七  
 にんみん(人民)  
 人民 三万六千五百  
 にんやくゆうじ(人薬王子)  
 人薬王子 三万三千三百  
 ぬか(糠)  
 ぬか 五万七  
 ぬか(主)  
 ぬし 六万七  
 ぬすむ(盗む)  
 ぬすむ 二万七  
 ぬすむ(連体法)  
 ぬすむ 二万七  
 ぬひ(奴婢)  
 ぬひ 一万七  
 奴婢 五万七千五百  
 ぬひくくむ(縫包む)  
 ぬひくくむ 三万六  
 ぬひくくむたりけるに

ぬる(濡る)  
 ぬる 四万七  
 ぬるる(連体法)  
 ぬるる 二万七  
 ぬ(音)  
 ぬ 六万七  
 ぬ(根)  
 ぬ 五万七  
 ぬける(寝入る)  
 ぬける 五万七  
 ぬいり給て  
 ぬいり 五万七  
 ぬかほくほ(願ほ)  
 ぬかほくほ 五万七  
 ぬかほくほ  
 ぬかほくほ 五万七  
 ぬかほむもの  
 ぬかほむもの 五万七  
 ぬかほん人  
 ぬかほん人 五万七  
 ぬかひ(中止法)  
 ぬかひ 三万七  
 ぬかひ給へきなり  
 ぬかひ 三万七  
 ぬかひ  
 ぬかひ 三万七  
 ぬかみ(鼠)

ぬすみ 三万七  
 ぬはん(涅槃)  
 涅槃 三万七  
 ぬはんきやう(涅槃経)  
 涅槃経 三万七  
 ぬむごろなり(想なり)  
 ぬむごろなり 三万七  
 ぬんころに  
 ぬんころに 三万七  
 ぬむす(念す)  
 念す 三万七  
 念したてまつる  
 念したてまつる 三万七  
 念すれば  
 念すれば 三万七  
 ぬんらい(年来)  
 ぬんらい 三万七  
 の(野)  
 の(野) 四万七千三百  
 のこす(残す)  
 のこす 四万七千三百  
 のこして  
 のこして 四万七千三百  
 のこりある(残り居る)

のこりゑたりけるに

の給けるは

のびの述ぶくまうしの

反す(返す)

三三六

五七三

三三六

三三六

のこる(残る)

の給けれは

のびる

碑して

五七三

二八二

三三六

三三六

のす(奏す)

の給しかは

のぼる(登る)

ほう(房)

三三六

三三六

三三六

二四六

のせ給なり

の給て

のほらぬは

ほうどう(方等)

三三六

三三六

三三六

二四六

のそく(給)

の給(運体法)

のほらぬは

ほう(房)

三三六

三三六

三三六

二四六

のそく(運体法)

の給せかし

のほりて

ほかい(破戒)

三三六

三三六

三三六

三三六

のそみ(望み)

の給は

のほりぬ

ほかな(果無)

三三六

三三六

三三六

三三六

のそむ(望む)

の給へり

のり(法)

ほかな(果無)

三三六

三三六

三三六

三三六

のそみて

のう(後)

のりみち(教道)

ほかな(果無)

三三六

三三六

三三六

三三六

のそめども

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

のたまはく

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

のたまはく

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

の給はく

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

のたまふ(宣ふ)

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

の給ける

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

の給けるに

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六

の給けるに

のう

のり(給へきなり)

ほかま(袴)

三三六

三三六

三三六

三三六



三六二

□侍なり

申侍べし

四六

いだし侍べし

きこえ侍めり

一六四

やさしくこそおほえ侍

二六四

〔て侍り〕

まいり給て侍けるに

二五九

つくりたてまつりて侍

けるに

二五八

ねいり給て侍ければ

いろにてぞ侍し

申べきにて侍

どどろきてぞ侍べき

ことばりにぞ侍べき

三六三

はめ給て侍めり

すゝめることにてぞ侍

める

申て侍める

もどめてこそ侍めれ

ゑられて侍めれ

まぬかるまじきことに

て侍ものを

〔形容詞・形容動詞連用

形+侍り〕

おほく侍ける

あさましく侍し

〔たく侍(連体法)〕

たのもしくぞ侍

ありかたくぞ侍

たのもしくぞ侍べき

おほく侍めり

あうはにぞ侍める

たのもしくぞ侍める

めてたくぞ侍める

かなしく侍(こそ)の

結び

はやし(早し)

はやく

はら(腹)

はら

はらふ(拂ふ)

はらはせて

はらむ(孕む)

はらみ給ぬ

はらもん(婆羅門)

波羅門

はる(春)

はる

春

はるかなり(遙なり)

はるかに

ばんき(万機)

万機

はんじやうす(繁昌す)

繁昌し給へる

ばんぢやう(番長)

番長

はん(や)般若

般若

ばんぶつ(万物)

万物

ひ(日)

ひ

日

ひ(火)

火

ひのやま(比叡山)

ひのやま

ひのやま

ひのやま

ひがしやま(東山)

東山

ひかり(老)	二一〇九	毗沙離國	五〇二モ五〇	ハウ <sup>*</sup> ネ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	一人	六〇四ニ <sup>2</sup> ウ <sup>2</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひかり	二一〇九	ひじり(聖)	六〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ハオ <sup>3</sup> 三 <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	
ひかるのせうしやう(老少将)	二一〇九	聖	六〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
老少将	二一〇九	ひそかなり(密なり)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひきいだす(引出す)	二一〇九	ひそかに	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひきいたして	二一〇九	ひだり(左)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひきいたせり	二一〇九	ひち(肘)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひく(引く)	二一〇九	ひち	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひき(中止法)	二一〇九	ひちうのくに(備中国)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひきて	二一〇九	備中国	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひく(比丘)	二一〇九	ひつじ(羊)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
比丘	二一〇九	ひつじ(羊)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひぐわん(悲願)	二一〇九	ひと(人)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
悲願	二一〇九	ひと(人)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひごふ(非業)	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
非業	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひさし(久し)	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひさしく	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひじやう(非情)	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
非情	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>
ひしやりこく(毗沙離國)	二一〇九	ハオ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup>	ハオ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup>	ハオ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup>	ハオ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup>	ハオ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup>

(兵部卿致平)

兵部卿致平 百一

ひやくくわん (百官)

百官 三三三

ひやくくろやぎやう (百鬼夜行)

百鬼夜行 三三三

ひやくし (白紙)

白紙 三三三

ひやくせん (百十)

百十 二二二

ひやくにじふねん (百二十年)

百二十年 三三三

ひやくにち (百日)

百日 三三三

ひやくまんへん (百万遍)

百万遍 三三三

ひゆきやう (譬喻経)

譬喻経 三三三

ひよし (日吉)

日吉 三三三

ひらく (開く) (四段)

ひらきて 三三三

ひらく (開く) (下ニ段)

ひらけて 三三三

ひろたのみやうじん (広田明神)

広田明神 三三三

ふ

ふ (徑)

ふか、りける 三三三

ふかく 三三三

ふかし 三三三

へにける 三三三

ふぎやうぼさつ (不輕菩薩)

不輕菩薩 三三三

ふく (吹く)

ふかれて 三三三

ふくむ (含む)

含む 三三三

ふける (蹴る)

ふけりて 三三三

ふじやうなり (不浄なり)

不浄なり 三三三

ふしむ (不審)

不審 三三三

ふす (伏す)

ふし給へりけるま 三三三

ふせりける

ふせる 三三三

ふせぐ (防ぐ)

ふせかんかために 三三三

ふせき給はむ

ふせく 三三三

ふどぐす (附屬す)

ふたぐす 三三三

ふた (簡)

ふた 三三三

ふた

ふた 三三三

ふぢはらのいへつね (藤原家経)

藤原家経 三三三

原為頼

原為頼 三三三

ふぢはらのためより (藤原為頼)

藤原為頼 三三三

原為頼

原為頼 三三三

ふぢはらのちかもり (藤原親盛)

藤原親盛 三三三

原親盛

原親盛 三三三

ぶつし (佛師)

佛師 三三三

佛師

佛師 三三三

ぶつしん (佛身)

佛身 三三三

佛身

佛身 三三三

ぶつせき (佛跡)

佛跡 三三三

仏跡 五〇二

ぶつだう (仏道)

仏道 一〇二 一〇三 二〇四

一〇五 四〇六 二〇九 二〇三

二一〇 二一〇 三〇五 三〇五

三〇五 四〇四

仏道 三〇五 四〇一

仏口 三〇五

ぶつほふ (仏法)

仏法 四〇一 四〇五 五〇七

二一〇 二一〇 二〇八

ぶつほふ (仏法僧)

仏法僧 三〇五 四〇一

ぶどうそん (不動尊)

不動尊 三〇五

不動尊 三〇五

ぶところ (樓)

ぶところ 三〇五

ぶにん (天人)

夫人 三〇五

ぶね (船)

船 三〇五

ふま (怖魔)

怖魔 一〇五 九〇五 九〇五

ふみ (文)

ふみ 八〇五

文 四〇五

ふみわく (踏分)

ふみわけて 一三〇五

ふむ (踏む)

ふまむ 三六〇五

ふもと (麓)

ふもと 三三〇五

ふりこむ (降込む)

ふりこめられて 三六〇五

ふる (旧る)

ふる (旧る) 三六〇五

ふる (振る)

ふりし 三六〇五

ふりて 三六〇五

ふる (触る)

ふる (触る) 三六〇五

ふるさと (古里)

ふるさと 二〇五

ふるし (古し)

ふるき (連体法)

ぶん (分)

分 三六〇五

べう (廟)

廟 三六〇五

へがたし (経難し)

へかたく 三三〇五

べち (別)

別 三六〇五

へん (辺)

へむじやく (鷓鴣)

鷓鴣 三六〇五

へんす (変ず)

変して 二六〇五 二六〇五

ほ

ほう (報)

ほう (報) 三〇五 四〇五

ほうけういんだらに (宝篋印陀羅尼)

宝篋印陀羅尼 三六〇五

ほうしやくきやう (宝積經)

宝積經 三六〇五

ほうす (崩す)

崩す (崩す) 三六〇五

ほうせん (報せんと)

ほうせん (報せんと) 三六〇五

ほうせん (報せんと)

ほうせん (報せんと) 三六〇五

ほうぶつしか (宝物集)

宝物集 三〇五

ほうれんのみこし (鳳凰御輿)

鳳凰御輿 三六〇五

ほか (外)

ほか (外) 三〇五 五〇五

ぼくせいす (ト筮す)

ト筮せとするに

ぼくせき (木石)

木石

ほくれい (北嶺)

北嶺

ほこ (鉾)

鉾

ほこる (誇る)

ほこりて

ほさつ (菩薩)

菩薩

菩提

ぼだい (菩提)

菩提

ぼだいじゆ (菩提樹)

菩提樹

ぼだいしん (菩提心)

菩提心

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

法師

ほろほす (滅す)

ほろほざれて 五〇七

ほんい (本意)

本意 七〇一 一七〇 一八〇一

ほむご (祝語)

祝語 一九〇

ほむし (祝士)

祝士 一〇三

祝士 一〇七

ほんぞん (本尊)

本尊 三六〇 四七五 四七五

本尊 三六四 四七四

ほんてう (本朝)

本朝 三六四

ほむてんたいしやく (祝

天帝釋)

祝天帝釋 三〇一

ほんなう (煩惱)

ほむなう 三〇三 三〇三

煩惱 三〇三

煩惱 一〇四 二〇七 二〇一

煩惱 四〇三 二四〇三

ま

ま (魔)

ま 五〇七 五〇八

まいにち (毎日)

毎日 三〇七 三〇七

まいねん (毎年)

毎年 三六四

まうく (設く)

まうくへきなり 一〇三

まうけ給へきなり 一〇三

まうしのべがたし (塵途

難し)

まうしのべがたし 三六〇

申のへかたきに 三六〇

まうしひらく (申開く)

申ひらくに 三〇一

まうす (申す)

申ける 一〇一

申ければ 一〇三 一〇一

申し 一〇三 一〇三 一〇三

申し 一〇三 一〇三

申たるぞかし 三〇六

申たるなり 三〇一 一〇三

申ためる 五〇三 三〇一

申ためれ 三〇三

申ためれば 三〇三

申ためれば 三〇三 三〇三

申て 三〇三

申ていはく 三〇三

申侍なり 三〇三 三〇一

申侍べし 三〇三 三〇三

申 三〇三 三〇三 三〇三

申 三〇三 三〇三 三〇三

申 (連体法) 三〇三

申 (連体法) 三〇三

申 三〇三

まかきなり 三〇三

まかきにて 三〇三

まかし 三〇三

申しこと 三〇三

申しころ 三〇三

申口 三〇三

まうす (申す) (補助動

詞)

まうす (申す) 三〇三

まかりいづ (罷出づ)

ましがごとく 一四〇

まづし (食し)

まぬかる 三三〇

まかりいてにける 百六

また (副詞) 一三六

まつしく (中止法) 一四

まぬかるまじき 分

まかる (罷る)

又 七五 一三〇 一八〇 一八〇

まつしぎ (連体法) 四〇 一三〇

まぬかるゝことを 四〇

まかりて 一四〇

ハウ 三〇

まけいしゆら (魔醯修羅)

また (接統詞)

まつだい (末代)

まぬかれ給ひ 五〇

魔醯修羅

又 三〇 四〇 七〇 二〇

移 三六

まぬかれぬと 三〇

まこと (実)

三〇 三〇 四〇 四〇

まつりかふ (祭変ふ)

まぬかれがたし (免難し) 一〇

まこと 二〇 四〇

またく (全く)

まつりかえつ 五〇

まぬかれ 〇 ければ 三〇

実 一〇

またく 二〇

まつりかへむ 三〇

まことなり (実なり)

またまた (又々)

まつりごと (政事)

まぬ (真似)

まことなるかなや 三〇

またく 二〇 三〇

政 三〇 三〇

まことに 四〇 四〇

又々 三〇 四〇

まどふ (迷ふ)

まぬ 二〇 二〇 二〇

三〇 三〇 三〇 三〇

まち (街)

まどへる 六〇

三〇 二〇 五〇

三〇

まち 三〇

まなこ (眼)

まひ (舞)

まそのぶ (雅信)

まちゆく (待後く)

まなこ 三六 四〇

まひ

雅一 一〇

まちうけて 二〇

まなこ 三六 四〇

まへ (前)

まして (増して)

まつ (待つ)

まなじり (眼尻)

まへ

まして 五〇 七〇 一〇

まち給へまなり 二〇

まなしり 三〇

まへ

三〇 田

まづ (先)

まぬかる (免る)

前

ます (増す)

まつ 一〇 三〇

まぬかる 五〇 三〇

前

まぼろし (一〇オ、三オ)

まま (儘) (一オ、三オ、三オ)

ま、 (一オ、三オ、三オ)

まのつ (魔滅)

魔滅 (四ウ)

まもらふ (守心)

まもらへて (三キ)

まもる (守る)

まもる (連体法)

二オ、二オ

まやぶにん (摩耶夫人)

まやぶ人 (九オ)

摩耶夫人 (四オ)

まわう (魔王)

魔王 (五ウ、五ウ、五ウ)

一ウ

まゐらす (参らす)

まいらせける (三オ)

まゐらす (参す) (補助動詞)

むかへまいらせたりける (六ウ)

まゐりあふ (参考心)

まゐりあはさりければ (六ウ)

まゐりあふ (連体法) (六ウ)

まゐる (参る)

まゐりける (三ウ)

まゐり給て (三ウ)

まゐりて (一オ、三オ)

まゐりて (三オ)

みかど (六ウ、一オ)

みかほのふだうじやく (三河入道寂然)

みかほのふだうじやく (三河入道寂然) (一四オ)

参川入道寂然

みぎ (右) (二オ)

右 (二オ)

みこ (御子) (五ウ、五ウ)

御子 (五ウ、五ウ)

みこし (御使) (三オ)

御使 (三オ)

みす (御簾) (九ウ)

みす (九ウ)

みすいじん (御隨身) (三ウ)

御隨身 (三ウ)

みだ (弥陀) (三オ、三オ)

弥陀 (三オ、三オ)

みだう (御堂) (四ウ、三オ)

御堂 (四ウ、三オ)

みだうのくわんぼく (御堂関白) (三ウ)

御堂関白 (三ウ)

みち (道) (三ウ)

みち (道) (三ウ)

みち (道) (三ウ)

みちかね (道兼) (七ウ)

道兼 (七ウ)

みちなが (道長) (三ウ)

道長 (三ウ)

みちびく (導く) (三ウ)

みちひき (中止法) (三ウ)

みちひき給 (三ウ)

みちひき給 (三ウ)

みちひき給 (三ウ)

みぢん (微塵) (一オ)

微塵 (一オ)

みつ (満つ) (四役) (三ウ)

みつ (満つ) (下二役) (三ウ)

みて、 (三ウ)

みて、 (三ウ)

みづ (水) (三ウ)

水 (三ウ)

みづから (自) (三ウ)

みづから (三ウ)

みつきもの (貢物) (三ウ)

みつきもの (貢物) (三ウ)

み



むかふ(向ふ)

むかひ捨ける 五ウロ

むかひて 三ホ一

むかふ(迎ふ)

むかへまいらせたりけるに 六ウ一

むげに(無下に)

むけに 六ホロ

むこまう(無虚妄)

無虚妄 三ホ一

むごむ(無慚)

無慚 四ホロ

無慚 四ホニ

むし(虫)

虫 四ホニ

むじやう(無上)

無上 一ホ一

むじやう(無常)

無常 八ホ一 三ホ一

むじやうぜん(無常尊)

無上尊 三ホ一

むじやうぼだい(無上菩)

提

無上菩提 二ホ一

無上菩提 一ホ一

むしむ(無心)

無心 三ホ一

むすめ(女)

女 三ホ一

むち(無智)

無智 四ホ一

むね(旨)

旨 三ホ一

むまる(生る)

むまる 三ホ一

むまる(連体法) 三ホ一

むまれ(中止法) 三ホ一

むまれず 四ホ一

むりやう(無量)

無量 三ホ一 三ホ一

むりやうごん(無量劫)

無量劫 三ホ一

め

め(女)

め 一ホ一

の(目)

め 二ホ一 二ホ一 三ホ一 三ホ一

めいし(名師)

名師 三ホ一

めいど(冥途)

冥途 一ホ一 三ホ一

めいしよ(名所)

名所 三ホ一

めぐる(廻る)

めぐり(中止法) 一ホ一

めくる 四ホ一

めす(召す)

めされぬ 四ホ一

めして 六ホ一 七ホ一 七ホ一

めすに 五ホ一

めつ(滅)

滅す(滅す) 三ホ一

滅するがごとく 三ホ一

めてたし(目出度し)

めてたき(連体法)

めてたくそ侍める 三ホ一

めのと(乳母)

めのと 三ホ一

めのと 四ホ一

も

もうきよ(毛苧)

毛苧 一ホ一

もし(若し)

もしも 三ホ一 三ホ一 三ホ一

もしほび(菜塩火)

もしをひ 三ホ一

もつ(持つ)

もたさりければ 三ホ一

もちたりけるに 三ホ一

もちたりけるを 三ホ一

もてり 三ホ一

もて(以)

「を」もて

こゝをもち 一四七 四〇七

諭をもて 三〇四

はし花をもて 二〇五

うちかつをもて 一四七

安部の氏をもて 五〇五

たとひをもて 七〇二

なすをもて 一〇七

子をもて 三〇五

天童録をもて 四〇六

してみそぶ(弄ぶ)

もてみそひて 一〇九

もてなす(持て成す)

もてなし 三〇五

もと(下)

もと 三〇一

もとむ(求む)

もとむへし 一〇二

もとむる 二〇三

もとむる(連体法) 四〇六

もとめ給けり 三〇七

もとめ給へきなり 一〇一 二〇五

もとめて(中止法) 三〇三

もとめてこそ 二〇三

もとのむ 一〇四 二〇六

もとめよ 一〇四

もとも(尤)

もの(物)

もの 三〇四

もの(物)

もの(物・者)(形式名詞)

もの(連体形十もの)

もの 四〇三 一〇三 二〇一

もの 三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九 三〇一〇 三〇一一 三〇一二 三〇一三 三〇一四 三〇一五 三〇一六 三〇一七 三〇一八 三〇一九 三〇二〇 三〇二一 三〇二二 三〇二三 三〇二四 三〇二五 三〇二六 三〇二七 三〇二八 三〇二九 三〇三〇 三〇三一 三〇三二 三〇三三 三〇三四 三〇三五 三〇三六 三〇三七 三〇三八 三〇三九 三〇四〇 三〇四一 三〇四二 三〇四三 三〇四四 三〇四五 三〇四六 三〇四七 三〇四八 三〇四九 三〇五〇 三〇五一 三〇五二 三〇五三 三〇五四 三〇五五 三〇五六 三〇五七 三〇五八 三〇五九 三〇六〇 三〇六一 三〇六二 三〇六三 三〇六四 三〇六五 三〇六六 三〇六七 三〇六八 三〇六九 三〇七〇 三〇七一 三〇七二 三〇七三 三〇七四 三〇七五 三〇七六 三〇七七 三〇七八 三〇七九 三〇八〇 三〇八一 三〇八二 三〇八三 三〇八四 三〇八五 三〇八六 三〇八七 三〇八八 三〇八九 三〇九〇 三〇九一 三〇九二 三〇九三 三〇九四 三〇九五 三〇九六 三〇九七 三〇九八 三〇九九 三〇一〇〇

もの 三〇四

ももぞののちうなごんや

すみつ (桃園中納言保光)

桃園中納言保光 セウエ

もろすけ (師輔)

師輔

もろもろ (諸々)

もろく

もん (文)

もんじ (文字)

もんじやく (問籍)

もんじやく

もんじん (門人)

もんぜん (文選)

もんごも (文等)

もんぶ (文武)

文武

や

や (矢)

やう (様) (形式名詞)

「運体形十やう」

あらんするやう

給やう

とりはたたつやう

「のやう」

須弥山のやう

羅喉羅のやう

善屋比丘のやう

極楽のやう

あしあどの口う

やうくわんりつし (永観

律師)

永観律師

やうけんわう (影賢王)

影賢王

やうけんわう (影賢王)

やうばいたうり (楊梅桃

李)

楊梅桃李

やうめいもんねん (陽明

門院)

陽明門院

やうやう (漸つ)

やうく

やきうつ (焼棄つ)

やきうつ

やぎやう (夜行)

夜行

やく (焼く)

やかれ

やくし (薬師)

薬師

やくしにむらい (薬師如

来)

薬師如来

薬師如来

やくどうじ (薬童子)

薬童子

やさし (優し)

やさしくこそ

やすし (易し)

やすき (運体法)

やすう (野史)

野史

やどす (宿す)

やどし (中止法)

やどる (宿る)

やどりたまひしより

やば (野馬)

野馬

やぶる (破る)

やぶるといふとも

やま (山)

やま

やま

山ヤマ (一ウラ一五ウ)

やまう (病) ↓やまひ

やまう

やまおくり (山送り)

やまをくり

やまがつ (山賤)

やまかつ

やまごと (山里)

やまさこ

やまでら (山寺)

山寺ヤマテラ

やまでらほふし (山寺法

師)

山寺法師ヤマテラホウシ

やまとものがたり (大和

物語)

大和物語

やまのゐのだいなごんみ

ちより (山井大納言道頼)

山井大納言道頼ヤマキナノナリノミチノタカシ

やまひ (病) ↓やまう

やまひ

二四ウ、二五ウ、二六ウ、二七ウ

病ヤミ

二五ウ、二六ウ、二七ウ、二八ウ

やみ (闇)

やみ

やむ (止む) (四段)

やみ (中止法)

やみぬ

やむ (連体法)

やむ (止む) (トニ段)

やめ給

やや (稍)

や、

ゆ (湯)

ゆ

ゆいけう (壇教)

遺教ユイケウ

ゆいな (維那)

維那ユイナ

ゆかしがる (床しがる)

ゆかしかりしかば

ゆき (雪)

二六ウ、二七ウ、二八ウ、二九ウ

ゆきあふ (行合ふ)

ゆき

ゆきあひて

ゆく (行く)

ゆきて

ゆきぬ

ゆく (連体法)

ゆふぐれ (夕暮)

ゆふくれ

ゆみべ (夕べ)

ゆふへ

ゆめ (夢)

ゆめ

ゆめゆめ (夢々)

ゆめく

ゆるす (許す)

ゆるす

ゆるす (連体法)

ゆゑ (故) (形式名詞)

輝体形 + ゆゑ

たふときゆへなり

二六ウ、二七ウ、二八ウ、二九ウ

死するゆへに

うしなふゆへに

やまひをもちゆへに

このゆへに

そのゆへに

「かゆゑ」

「別なきがゆへに」

おそれあるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

二六ウ、二七ウ、二八ウ、二九ウ

力チカラによるがゆへに

三〇六

せめらる□がゆへに

三〇七

臨終リンシユ正念テイセンならざるがゆへに

三〇八

心なきがゆへに

三〇九

由なきがゆへに

三一〇

交なきがゆへに

三一〇

そくがゆへに

三一〇

女メはまきがゆへなり

三一一

功徳クツトクのゆへに

三一一

4

女メ(世)

女メ一七五二七五二八五三二八六

三〇六三〇七三〇八

女メ(夜)

女メ三〇九三一〇三一一三一二

女メ(余)

余ヨ三一一

女メ(曲)

女メ六一六六五

女メ(良し)

女メ三一二三六六

女メくして

女メき(連体法) 三〇七

女メ子(他所)

女メ子(他所) 三〇七

女メのなか(世中)

女メのなか 三〇七

世中ヨチ 三〇七

女メの中 三〇七

女メは(夜半) 三〇七

女メは(弱し)

女メはまきがゆへ

女メはまきがゆへ

女メはまひ(懸)

女メはまひ

女メひ(宵)

女メひ

女メひはなつ(呼放つ)

女メひはなちて

女メほろ(丁)

女メをろ

女メむ(読む)

女メみ給ひける

女メみ給ける

女メみて

女メみてぞ

女メみ侍ける

女メむ(連体法)

女メめと

女メめるなり

女メめるは

女メりみち(頼道)

頼道

頼一

女メる(依る)

女メりて

女メるが

女メるべし

女メるこび(喜ぶ)

女メるこび給はず

女メるこび給

女メるこびて

女メろづ(方)

女メろつ

三〇一三〇二

5

らいがう(来迎)

来迎ライゴウ

らいがういんせん(来迎)

引換インカン

来迎引換ライゴウインカン

らうご(老後)

老後ラウゴ

らうそう(老僧)

三二七

老僧 ラウソウ 三三

らうも (老母)

老母 ラウモ 三五

らん (羅漢)

羅漢 ラン 四二

らく (樂)

樂 ラク 三〇

らごら (羅睺羅)

羅睺羅 ラゴラ 二二

らせつによ (羅刹女)

羅刹女 ラセツ 二六

らん (蘭)

蘭 ラン 四四

らんしやう (乱声)

乱声 ランシヤウ 三三

り

りう (菫)

菫 リウ 四〇

りうぎゅう (琉球)

琉球 リウギウ 三三

りさんす (離山す)

離山す リサン 五二

りしやう (利生)

利生 リシヤウ 元

利口 リク 五二

りやうあむ (諫閻)

諫閻 リヤウアム 六三

りやうせん (靈山)

靈山 リヤウセン 六五

りやうのぶわう (梁武帝)

梁武帝 リヤウノブワウ 二

りやく (利益)

利益 リヤク 元

りむじゆしやうねん (臨終正念)

臨終正念 リムジユシヤウネン 三三

れ

れい (例)

例 レイ 二

れいせい (冷泉)

冷泉 レイセイ 三

れいせいかはら (冷泉河原)

冷泉河原 レイセイカハラ 三

れいせいかはら (冷泉河原)

冷泉河原 レイセイカハラ 三

れいせいぬんのにのみや (冷泉院二宮)

冷泉院二宮 レイセイニノミヤ 六

れいけむ (靈験)

靈験 レイケム 六

れうがん (竜顔)

竜顔 レウガン 一

れうびやうみん (療病院)

療病院 レウビヤウミン 三

れんぐゑ (蓮花)

蓮花 レングヱ 二

れんぐゑ (蓮花)

蓮花 レングヱ 二

れんぐゑによ (蓮花女)

ろ

ろく (録)

録 ロク 四

ろくぐわち (六月)

六月 ロクグワチ 七

ろく (録)

ろく (録)

ろくぐんびく (六軍比丘)

六軍比丘 ロクグンビク 二

ろくしう (六種)

六種 ロクシウ 二

ろくしちぐわち (六七月)

六七月 ロクシチグワチ 九

ろくでうのしんぬん (六条新院)

六条新院 ロクデウノシンヌン 九

ろくにん (六人)

六人 ロクニン 九

ろくにん (六人)

六人 ロクニン 九

ろくにん (六人)

六人 ロクニン 九

ろくはら (六波羅)

六波羅

三〇〇

ろくまぎ (六巻)

六巻

一〇〇一

わ

わう (王)

王

五〇〇二〇四

わうくう (王宮)

王宮

一〇〇五

わうし (王氏)

王氏

三〇〇四

わうじ (王子)

王子

三〇〇三〇三〇三

三〇〇五

わうじやう (往生)

往生

四〇〇七

わうじ

往生

一〇〇三三〇三三〇三

わうじやうごくらく (往生極楽)

往生極楽

三〇〇四〇〇

わかくみ (若君)

我

三〇〇三〇三〇三

わかし (若し)

我

五〇〇一五〇四一〇〇六

わかくして

三〇〇一

わかくて

三〇〇六

わかくみ

三〇〇七

わかくみ

三〇〇八

わうじやうす (往生す)

往生す

三〇〇九

往生し (中止法)

往生す

三〇一〇

往生する (連体法)

往生す

三〇一一

往生せむこと

和歌

三〇一四

わが (我が)

和歌

一〇一三

わが (我が)

和歌

三〇一五

わが (我が)

和歌

三〇一六

わが (我が)

和歌

三〇一七

わが (我が)

和歌

三〇一八

わが (我が)

和歌

三〇一九

わが (我が)

和歌

三〇二〇

わが (我が)

和歌

三〇二一

わが (我が)

和歌

三〇二二

わが (我が)

和歌

三〇二三

わが (我が)

和歌

三〇二四

わが (我が)

和歌

三〇二五

わが (我が)

和歌

三〇二六

わが (我が)

和歌

三〇二七

わが (我が)

和歌

三〇二八

わが (我が)

和歌

三〇二九

わが (我が)

和歌

三〇三〇

わが (我が)

和歌

三〇三一

わつらひて

童

一〇一三三〇

わらは (童)

童

一〇一三三〇

わらふ (笑ふ)

童

一〇一三三〇

わらひし

童

一〇一三三〇

わる (割る) (下二段)

童

一〇一三三〇

われて

童

一〇一三三〇

われ (我)

童

一〇一三三〇

われ

童

一〇一三三〇

る

る (猪) ↓ ぬのしし

猪

一〇一三三〇

るぎ(威儀)

威儀 キキ 三〇五 二〇五

るのしし(猪) ↓ る

るのしし イノシシ 一八七

猪 イノ 二〇五 一六〇

るる(居る)

るられて イラレ 一六〇

るんがう(院号)

院号 イノ 一六〇

**る**

るざう(絵像)

絵像 エゾウ 三〇一 一六〇

るしやうてんし(会昌天)

会昌天子 エシヤウテンシ 五〇七

るちぜんのかに(越前国)

越前国 エチゼン 一六〇

るふ(酔ふ)

るひて イユ 一五〇

るんあう(鴛鴦) ↓ おし

鴛鴦 ウヰ 一〇九

るんいうぬん(円融院)

円融院 エンニウイン 一〇五

るんこう(猿猴)

猿猴 エンコウ 一〇三

るんこく(遠国)

遠国 エンコク 一〇七

**を**

をかす(犯す)

をかされて カカサレ 三〇六

をかみ(捋み)

をかみし カカミ 一五〇

をかむ(捋む)

をかみ給 カカミ 一〇三

をかみ給なり

をづけ(麻小筍)

おこけ カケ 三〇四

をさなし(幼し)

おさなしとて カサナシ 一〇七

をし(借し)

かりければ カシ 一〇三

をしふ(紋ふ)

をしへ(中止法)

をしへて カシヘ 一〇四 三〇八

をしへ(教へ)

をしへ カシ 二〇八

をしむ(借しむ)

おしみ(中止法)

をしこ(男)

おとこ カシコ 一〇四 三〇五 一〇三

をしこ(男)

男 カシコ 一〇三

をし(小野)

小野 カシノ 一〇三

をしこ(男)

男 カシコ 一〇四

をしこご(男)

男 カシコゴ 一〇四

をしり(終り)

をしり カシリ 一〇二

をし(折)

をし カシ 一〇四 二〇八

をぞ(鳥鷄)

鳥鷄 ウヰ 三〇五 二〇五 四〇二

をん(恩)

おむ オン 四〇三

をん(園)

園 オン 四〇三 四〇四

をんじやうじのないくち

こう(園城寺内供智興)

園城寺内供智興 オンジヤウジノナイクチ 三〇三

をんてき(怨敵)

怨敵 オンテキ 三〇三

をんとく(恩徳)

恩徳 オントク 三〇三

をむな(女)

女 オンナ 三〇三 三〇四 三〇五 三〇六

をむなまむだち(女公達)

女公達 オンナマムダチ 六〇二 一〇三

をむなび(女子)

女子 オンナ 一〇三

をむなび(女子)

女子 オンナ 一〇三

經文等引用句

仏及衆□

一〇八

隨世似望有一

背俗如狂人

定憂哉世間

何処隱一身

四〇三

我少出家得阿耨多羅

一〇二

此□壽不定

一〇八

今此三界皆是我有

其中衆生悉是吾子

一〇七

我觀一切普皆平等

一一〇

若仏不出於世間

一切衆生受大苦

即無人天唯惡趣

但聞種々苦音聲

一〇四

惡病除喻乃至速證

無上菩提

一〇六

種々諸惡趣

地獄畜生

生老病死苦

以漸悉令滅

若我誓願大悲中

一人不成二世願

我墮虛妄罪過中

不還本覺捨大悲

難陀衆生能度相現

悲愛衆生慈如一子

千手千眼觀世音

生々世々希有者

一間名号滅重罪

無量仏果得成報

一〇二

念々勿生疑

一〇八

造作五逆罪常念地藏尊

遊戯諸地獄決定代受苦

今世後世能引導

一〇七

「藤」  
関院 正 大将 朝光  
モウ1

「藤」  
小 一 条 右 大将 清時  
モウ1

「源」  
六 条 左 大臣 殿  
モウ1

「藤」  
栗 田 右 大臣 殿  
モウ2

「源」  
根 園 中 納 言 保 光  
モウ2

「山」  
山 井 大 納 言 道 賴  
モウ4

「内」  
二 郎 内 大臣 左 大将  
モウ4

「これも関白したまへり  
実は末子なり」

モウ4

附記

本稿の製版において、  
牧野泰子・松本光隆両氏  
の御協力をお願いした。  
厚くお礼申し上げます。  
尚、虫損未詳箇所を  
はじめとして、今後更に精  
確を期したい。